

vol.35 mar. 2021



拓海

「海」を切り開く匠の業と心

CONTENTS

2020年度 旅立ち	
卒業特集	
卒業生・修了生のみなさんへ	3
卒業生・修了生から在学生へ	7
卒業、修了する先輩留学生から在学生へ	12
退職の年を迎えて	14
大学院紹介	17
グローバル人材育成プログラム	20
海洋工学部国際交流プログラム	21
業界で活躍しているOB・OGの方々	22
新任教員の紹介	24
大学祭の紹介	27
学生の課外活動報告	28
ニュース&トピックス	29
学生相談室からのお知らせ	34
本学の学生相談体制について	35
お知らせ	36

◆2020年度 旅立ち

■卒業特集

◎卒業生・修了生のみなさんへ

ポストコロナ時代におけるニューノーマルな 社会に向けて	竹内 俊郎…… ③
卒業生・修了生のみなさんへ	川辺みどり…… ④
卒業生の皆さんへ	井関 俊夫…… ⑤
前途に幸あれ	田中 祐志…… ⑤
卒業・修了する皆さんへ	舞田 正志…… ⑥

◎卒業生修了生から在学生へ

中途半端は後悔の元…	佐藤 鉄馬…… ⑦
在学生の皆様へ	大林 莉奈…… ⑦
百聞は一見に如かず	五十嵐 悠…… ⑧
在校生の皆さんへ	川邊 桃子…… ⑧
踏み出せ！一歩！！	余田 博紀…… ⑨
在学生の皆さんへ	戸田麟太郎…… ⑨
自分の道をいけ	水野 晶太…… ⑩
理想の大学生活	永井 智明…… ⑩
在校生へのメッセージ	鈴木進之介…… ⑪

◎卒業、修了する先輩留学生から在学生へ

悔いのないように	王 喆君…… ⑫
迷わず挑戦しよう	孫 汶成 (SON MUNSEONG) …… ⑬

■退職の年を迎えて

海洋生物資源学部	佐藤 秀一…… ⑭
海洋政策文化学部	森下 丈二…… ⑭
流通情報工学部門	寺田 一薫…… ⑮
海洋環境科学部門	任 恵峰…… ⑮
水圏科学フィールド教育研究センター	
館山ステーション	須之部友基…… ⑯
船舶・海洋オペレーションセンター	
海鷹丸機関長	坂本 牧夫…… ⑯

■大学院紹介

食品流通安全管理専攻	濱田奈保子…… ⑰
海洋管理政策学専攻	北門 利英…… ⑱
応用環境システム学専攻	章ふいふい…… ⑲

■グローバル人材育成プログラム

第14期シンガポール隊	齋藤 瑞月…… ⑳
海外探検隊での体験	稲葉飛多紀…… ㉑

■海洋工学部国際交流プログラム

新たな世界を感じた7日間	相川 航輝…… ㉒
MMMAインターンシップに参加して	影山 太郎…… ㉒

■業界で活躍しているOB・OGの方々

地方自治体の水産職として働いて	田村 怜子…… ㉓
大学時代と研究職10年間を振り返って思うこと	七崎 裕介…… ㉓

■新任教員の紹介

食品生産科学部門	耿 婕婷…… ㉔
食品生産科学部門	田中 誠也…… ㉔
海洋政策文化学部	今村 圭介…… ㉕
海事システム工学部門	笹原裕太郎…… ㉕
海洋資源エネルギー学部	Yuttana Theparoonrat…… ㉕

■大学祭の紹介

海鷹祭	津山 透…… ㉖
-----	----------

■課外活動報告

潜水部	佐藤 新…… ㉗
男子カッター部	小林 彦太…… ㉗

■ニュース&トピックス

- ・「父母等懇談会」を開催しました …… ㉘
- ・令和元年度3月期及び令和2年度9月期
学生表彰授与式を行いました …… ㉙
- ・令和2年度9月期
学位記・修了証書授与式を行いました …… ㉚
- ・令和2年度10月期
大学院入学式を行いました …… ㉛
- ・新型コロナウイルス感染症に関する
対応について …… ㉜
- ・サークルリーダーシップ研修会を
開催しました …… ㉝

■学生相談室からのお知らせ

- ・学生相談室について …… ㉞
- ・学生相談体制について …… ㉟

■お知らせ

- ・就職支援体制について …… ㊱
- ・国立科学博物館および
国立美術館の利用について …… ㊲
- ・緊急時連絡システムについて …… ㊳
- ・ネットワーク障害防止のための注意事項 …… ㊴
- ・学生関係窓口からのお知らせ …… ㊵
- ・悪質な就活商法に関する注意喚起 …… ㊶
- ・東京海洋大学校友会について …… ㊷
- ・掲示板 …… ㊸

2020年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生のみなさんへ

ポストコロナ時代における ニューノーマルな社会に向けて

学 長
竹 内 俊 郎

卒業生、修了生の皆さん、ご卒業、ご修了おめでとうございます。

皆さんは、これまで、本学で海洋・海事・水産及びその関連分野について学んでこられました。

まず、学部生の皆さん、コロナ禍の中、三密を避け、工夫をしながら実験・実習をされたことと思いますが、思う存分学び、卒業論文が書けたでしょうか？

次に、水産専攻科の皆さん、コロナ禍の中、これまでとは違って出港式もない長期航海ではあったものの、一回りも二回りも大きく成長できたことと思います。

そして、大学院の皆さん、withコロナの中、論文作成のための実験が出来なかったり、リモートによる学会や国際会議への参加を余儀なくされるなど、様々な制約があった中、オリジナルの研究を発表できたでしょうか？

そして、すべての皆さん、“よき友達”が得られたでしょうか？

私としては、皆さんが本学で学んで良かったと思っただけのことを切に願っています。

昨年の1月下旬以降、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、残念ながら多くの方がお亡くなりになりました。皆さんのご家族、ご親戚の中に、感染された方、また不幸にもお亡くなりになられた方々がいら



っしゃいましたら、心からお見舞い申し上げますとともに、謹んで哀悼の意を表します。

この1年、近年としては、これまで経験したことがない大きな試練の中で、皆さんがそれぞれ頑張ってきたことに、敬意を表します。しかし、自分の力だけでここまでこられた訳ではありません。これまでお世話になったご両親など保護者の方々をはじめ、教職員の方々に対して、感謝の気持ちを忘れないで欲

しいと思います。

昨年の3月期は、新型コロナウイルス感染が拡大しつつあった時期に当たり、残念ながら学位記・修了証書授与式を中止せざるを得ませんでした。現在も、感染拡大の波が幾度も押し寄せるなど、日本のみならず世界の感染状況は好転しておらず、そのため、令和2年度3月期の学位記・修了証書授与式は、参加者を三学部の各学科、水産専攻科、大学院博士前期課程の各専攻の代表者に限定するなど、規模を縮小して実施するとともに、参加できない学生のために、その模様をライブ配信としております。出席できなかった学生やご家族の皆様方には大変残念な思いをさせてしまいましたが、「自分は感染しない。もし、感染したら相手に感染させない」をモットーにしている本学の方針をご理解いただければと思います。

さて、大学生生活が激変したこの一年余りの中で、皆さんは何を学びましたか？

4月から9月に実施した遠隔授業のメリット・デメリットや、友達との新しい付き合い方など、良きも悪きもいわゆるポストコロナ時代に向けた「新しい生活様式」を体得しつつあるのではないのでしょうか。今後は、これらの経験を通じて、今までになかった新しい仕事や生活スタイルが実践できるようになるかもしれません。

本学においても、現在実施している「対面授業」と「遠隔授業」の併用様式（ブレンド型・ハイブリッド型）が定着するとともに、遠隔操作による実験やリモートによる現地見学・視察、実習なども今後増えてくるかもしれません。また、地方にいるため受講できなかった社会人向けの「リカレント教育」や、海外の大学からリモート発信される講義の受講や実験指導、さらには学位の取得なども可能になることでしょう。

一方、企業を含む各組織体では、「テレワーク(在宅勤務)」がこれから益々一般的になっていくことでしょう。海外の企業との商談などは、リモート会議で十分かもしれません。また、日本固有の文化でもある書類への押印の廃止や「紙による決裁」に代わって「電子決裁」も進んでいくでしょう。

皆さんは、これまで本学で学んできた知識だけでは十分とは言えません。これからは、本から得た知識や様々な体験だけではなく、再度学んだりしながら絶えず疑問を持ち、解決方法を模索し、総合的な判断を行い、

社会に役立つ“高度専門職業人”を目指していただきたいと思います。その際、ポストコロナ時代のニューノーマルな社会を受け入れ、あるいは作り出し、これまでも増して、充実した人生を歩んで欲しいと思っています。

この3月は、平成29年度に設置した「海洋資源環境学部」が、初めての卒業生を輩出することとなりますが、私も、本学学生として入学以来、教員、学長（6年）通算52年を経て今回晴れて卒業（任期満了）となります。皆さんの門出を見送りつつ、私も大学を去ることとなります。これまでの皆様方のご支援、ご鞭撻に心から感謝いたします。有難うございました。そして、学生を含め、すべての皆さんに、幸多かれ！と願っています。

卒業生・修了生のみなさんへ



海洋生命科学部長

川辺 みどり

ご卒業おめでとうございます。

みなさんが大学で過ごした最後の年は、新型コロナウイルス禍という、あらゆる社会活動が制限された1年でした。大学でも、ともに学び、語り合うという、当たり前にはできない辛さがありました。

しかしまた、学ぶことが多かった1年でもありました。私たちの生活を支えてくれている人たちの存在にあらためて気づき感謝しました。困ったときこそ励まし合い助け合おうとする人たちの善意と行為を嬉しい驚きを持って知りました。

コロナ禍に見舞われた世界がこれからどうなるのかはわかりません。しかし変化を余儀なくされることは確かです。その変化が、社会の格差や憎悪を拡大したりするものではなく、だれもが平和に幸福に暮らすことができる世界を構築するものであってほしいと願います。

これから未来へ向けて歩み出すみなさんに、ひとこと助言をさせていただきます。

私たちが生きていくなかで、心に不安がわきあがるときは必ずあります。そこで考えるのはよいことです。しかし、悩みすぎないでください。今なすべきことに思いを集中し

て、「今を生きる」ようにしてください。

それでもなお、無明の闇夜を歩くような思いを持つときには、信頼できる友人や家族に、あるいは、カウンセラーや弁護士などの専門家に相談してください。決してひとりで悩んで絶望しないようにしてください。

そんなときのために、次の一節を贈ります。

「私はもはや人生から期待すべき何ものも持っていないのだ。」これに対して人は如何に答えるべきであろうか。

ここで必要なのは生命の意味についての問いの観点変更なのである。すなわち人生から何を我々はまだ期待できるかが問題なのではなく、むしろ人生が何を我々から期待しているのかが問題なのである。

ヴィクトール・E・フランクル

これからの道行きに幸多からんことを祈ります。

卒業生の皆さんへ



海洋工学部長

井 関 俊 夫

今年は新型コロナウイルスに社会全体が振り回され、世界中の人々にとって、身体的にも精神的にも苦痛を強いられた1年だったと思います。コロナ禍に巻き込まれた方々には心からお見舞い申し上げます。

情報通信技術をはじめとした科学技術の発展により、私たちはこれまで自由で便利な現代社会を満喫してきました。その社会システムが目に見えない小さなウイルスによって、いとも簡単に破壊され、私たちの生活様式は強制的に変更させられました。その影響で、多くの社会的慣習が制限され、関連する価値観が変化し始めています。経済的損失も計り知れず、今後長期間にわたる試練を私たちは経験することになるでしょう。しかしながら皆さん、これからも前を向いて、明るい未来を目指して下さい。使い古された言葉ですが、ピンチの後には必ずチャンスがやって来ます。社会の動向を注意深く観察していれば、チャンスは必ず見えて来ると信じます。ポストコロナの社会については、各

方面で多くの予測がなされていますが、高度なIoTやAIによって、私たちの生活様式も更に大きく変化することでしょう。そのような視点から見れば、この社会は新しい様式で再開発されるべき分野で溢れていて、海洋工学の分野に限って考えても、無限の海原が眼前に広がっているようなものだと思います。皆さんがやるべきことは沢山あります。

本学での学修を終えた卒業生の皆さんは、問題発見・解決能力を実学によって身につけています。今こそ、その実力を発揮して、国内外を問わず、社会で大活躍してくれることを期待します。東京海洋大学は2020年度から「海洋産業AIプロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」の第1期生を迎え入れました。このプログラムでは、海洋に関するあらゆるビッグデータを解析対象として、海洋産業の発展に資する各種AIの社会実装を行う高度技術者を育成します。博士後期課程では5名の社会人編入学生枠を設けています。新時代を切り開きたいと思う卒業生は、いつでも東京海洋大学に戻ってきて、一緒に勉強しましょう。

前途に幸あれ



海洋資源環境学部長

田 中 祐 志

2017年に創立した海洋資源環境学部は、初めての卒業生を世界に送り出す。卒業生諸君、おめでとう。学部の全教員を代表して、第1期生の巣立ちを心から祝福する。

Pandemicの混乱の中、最後の1年間は誰もが不安で落ち着かない日々を過ごしたことだろう。中には大切な人が感染したり落命されたりした方もあるだろう。心からのお見舞いとお悔やみを申し上げる。

これからの何年かは後戻りのできない大変革の波に襲われる。諸君には、その波に巻き込まれ翻弄されるのではなくその波を制御し操縦するような動きを期待する。といっても物事はいつもうまく行くわけではない。「七転八起」とか「不撓不屈」とか様々な喩えがある。スポーツでは、試合やリーグ戦で失敗の度にしょげる代わりに、やや長い目で見てその試合やリーグ戦に勝つことを目標に、個々の

失敗は失敗として反省し次に活かす、という前向きな姿勢で臨まないと良い結果は得られない。実業でも失敗は成功の基などと言う。失敗を重ねながら、前向きに持ち場での役割を全うして行こう。

ここで特に、諸君が受けたグローバル人材育成教育について所見を述べる。

諸君は3年から4年への進級要件「TOEIC 600点以上」という厳格なハードルを越えてきた。入学時にこれを絶望的な壁のように思えた人も、見事に乗り越えた。努力に心からの敬意を表する。600点はこれから活躍する世界への通行許可証のようなものでしかないとはいえ、誰もがそれを持っているわけではない。いわばお墨付きだ。ただし「グローバルに活躍する人」は「祖国を忘れた無国籍的国際人」ではなく「祖国を十分に意識した上で国際的に渡り合える人」だと私は考える。海に関する知識と技術に裏打ちされた海洋資源環境学部の卒業生が、持ち場での役割をしっかりと果たしている、時には日本を代表して活躍している、という報せを聞いたら、これほど嬉しいことはない。

洋々の前途に幸あれと祈る。

限られたデータの中で従来にない発想で理論を構築し、学位論文を作成できたのであろうと推察します。

これからの皆さんの前には、幾たびとなく、大きな壁が立ちはだかることもあるでしょう。「乗り越えられない壁はない」とよくいわれますが、立ちはだかる壁を乗り越えられるかどうかは、偶然の産物ではなく必然であると考えます。立ちはだかる壁を前にして、立ちすくんだり、あきらめたりせず、壁を乗り越えようとする強い意思を持つことが必要です。そして、その壁を乗り越えるために何をしなければならないか、どうすれば目標に到達できるかについて、できるだけ多くの可能性を考え、実行に移すことだと思います。つまり、立ちはだかる壁は自然に乗り越えられるというものではなく、周到に準備し、乗り越えるための手を打つ必然的なものだという事です。

皆さんは、非常事態下で壁を乗り越えたという経験をしたのですから、この1年間の学習、研究活動を通して、何を学び、何を身につけられたのかを見つめ直し、今後の社会での活動に活かしてもらいたいと思います。今後の活躍を期待しています。

6

卒業・修了する皆さんへ



海洋科学技術研究科長
舞田正志

まず、卒業、修了を迎えられた皆さんに心からお祝いを申し上げます。コロナウィルス感染症の拡大という未曾有の事態の中で多くの困難に直面しながら無事に卒業、修了できることは、通常的环境下で卒業、修了した学生諸君に比べて、より多くのことを学び、修得したのではないかと思います。

学位論文の作成にあたって行う研究は、ディプロマポリシーに記載された皆さんが卒業、修了にあたって身に付けるべき能力を発揮する総合的な修練の場です。しかし、入構制限や感染防止対策などで十分な研究活動を行うことができなかったという人が多かったのではないのでしょうか。そのような状況の下でも学位論文を仕上げ、無事に卒業、修了を迎えたということは、



2020年度 旅立ち

卒業特集

卒業生、 修了生から在学生へ

中途半端は後悔の元…

海洋生命科学部 海洋生物資源学科4年

佐藤鉄馬

卒業生の一人として、在学生の皆様へ、いま私が思っていることをお伝え出来ればと思います。私からのメッセージとしては、「大学生活で、やりたいことを最後まで為し遂げてほしい」。入学前から言われるようなことですが、今このことを殊更に実感しています。海洋大での経験は素晴らしいものでしたがそれでも「もっとやりたいことをやっておくんだっ！」と感ずることがしばしばあるのです。

例を挙げると、TOEICの勉強でしょうか。海洋大の卒業要件の一つにTOEICスコア600以上というものがありますが、私としては在学中に700以上を取りたいと考えていました。しかし、大学での時間は中々に早く進んでしまうもので、後回しにするうちに気付けば4年、点数は要件を満たした程度で、実に中途半端に終わりました。

大学生は自由に使える時間が多いと思いますから、勉強や研究に没頭するもよし、バイトやサークル、部活動に注力するのも、新たな趣味を探すのもいいと思います。せっかくですから徹底的に。物事に全力で取り組んだ経験は必ず糧となり、人生の基盤となるはずです。ついでに就活にも役立ちます。

しかしながら、現在は新型コロナウイルスの影響が無視できません。行動の制限でどうしても出来ないこともあるでしょう。学びにも支障をきたし、不安も多いと思います。だからこそ、大学に思い残しが無いよう過ごしてほしいのです。新しいことを始めるには、ある意味良い機会かもしれません。「コロナのせいで何

も出来なかった」と嘆くより、「コロナを乗り越えて何かを為し遂げた」と胸を張った方がカッコいいと思いませんか？

在学生の皆様へ

海洋生命科学部 食品生産科学科4年

大林莉奈

僭越ながら、お伝えしたいことが二つあります。一つ目は「出会った仲間を大切にしてほしい」ことです。3年次の「食品生産学実習」での話です。冷房設備がない7月の実習場で缶詰にマグロ肉を敷き詰め続けた実習は過酷そのものでした。しかし、そのような経験でも楽しかったと思えるのは、学科の仲間と辛さを共有することが出来たからです。関わりの少なかった人とも協力して一つの課題を成し遂げたことが忘れられない経験になりました。学生時代に助け合った仲間の存在が社会人になっても大きな支えになることを確信しています。

二つ目は「興味の赴くままに様々な経験をしてほしい」ことです。私は4月からIT商社の企画職に就く予定です。海洋大と何も関係ないのではと思った方もいるかもしれませんが。その通りです。大学入学時には想像もつかなかった道です。広い世界に出たいという興味だけで参加した海外探検隊にて中国のITテクノロジーに感銘を受け、誰もが暮らしやすい環境を自身の手で作り上げたいという目標を見つけました。学生時代に無駄なことはありません。誰に何と言われようと、皆さんの好きなことや楽しいと思えることを模索し続けてほしいです。

昨年から新型コロナウイルスの影響で思い描いた学生生活

が送っていない人がほとんどだと思います。ですが、不自由な環境下でもできることはあります。皆さんがかけがえのない学生生活を送れることを心より願っています。



上海の様子

百聞は一見に如かず

海洋生命科学部 海洋政策文化学科4年
五十嵐 悠

この4年を振り返ると、数々の実習、教職課程の学習が特に印象に残っており、これらの経験が充実した大学生活に大きく貢献していたと思います。

海洋政策文化学科の実習はバラエティーに富んでおり、初めて体験することばかりでした。実習地に到着してすぐ登山が始まったり、初めてシーカヤックをした日のうちに無人島まで行ったりしたことは、今後の人生で忘れることはないでしょう。また、水産調査等で漁業者さんと実際にコミュニケーションをとる機会をいただいたことは卒業後の進路選択に大きく影響し、地元の県庁で水産業の振興に貢献したいと思うきっかけになりました。

教職課程で印象的なのは、地元の水産高校での教育実習です。普通科高校出身ということもあり、水産高校での2週間は驚きの連続でした。教育に関するだけでなく、地元の水産に関する理解を深めることもでき、今後生きる体験をすることができました。在校生の皆さんにも、ぜひ水産の免許取得を目指して学習してほしいと思います。

以上のような体験から、何事も実際に経験してみることが必要だと学びました。ありきたりな表現になってしまいますが、「百聞は一見に如かず」を実感できた

4年間だったと思います。4年間は本当にあっという間です。時間は若さの味方だと聞いたことがあります。在校生の皆さんには、今のうちでできることを見つけて積極的に体験してほしいと思います。

在校生の皆さんへ

海洋工学部 海事システム工学科4年
川邊 桃子

本学での4年間の大学生活を振り返ってみると、多くの教授や友人に恵まれ本当に充実した日々を送ることができたのではないかと考えています。また、本学ならではの实習が数多く、他では体験できないような生活を送ることができました。

この大学生活で私が大切にしてきたことを一つ紹介しようと思います。それは「目の前のことを一生懸命やる」ということです。一生懸命やったにも関わらずうまくいかなかったという経験をしたことがある人は多いと思います。たとえいい結果が出なくても、一生懸命にやっていたら必ず何か手に入れられるものがあります。それは、成果として結果に表れるかもしれませんが、達成感や満足感、信頼感などといった目に見えないものかもしれませんが、何かしらの形で今後の人生の糧となるのではないのでしょうか。私の場合、目の前のことを自分なりに一生懸命やるのが自信を持つことにつながりました。在学中に見つけた夢に自信をもち、その夢を実現すべく一歩を踏み出すことができました。

失敗することを恐れ、一生懸命に取り組むことをためらっている人も、試しに一生懸命やってみてはどう



研究室のメンバーと（筆者前列左）

でしょうか。学業でも課外活動でも何でも構いません。もし、失敗したとしてもその失敗を糧にまた一生懸命やってみればよいのです。目の前のことに一生懸命に取り組むことで、充実した人生を送ってほしいと思います。

最後になりますが、在学生の皆さんの益々のご活躍を期待しております。

踏み出せ！一歩！！

海洋工学部 海洋電子機械工学科4年

余 田 博 紀

皆さんこんにちは。海洋電子機械工学科の余田博紀です。「拓海」への執筆依頼を頂き大変光栄に思います。今回のテーマは在校生へのメッセージとのことなので、多くの方が気になっているであろう就職活動についてお話させていただきます。

さて、皆さんは就職活動をどのようにとらえていますか？不安？楽しみ？くだらない？いろんなとらえ方があっていいと思いますが、私は就職活動を終えた今、あんなに有意義な学びの場はなかったと感じています。「就活生」という肩書きがあるだけで、本当に様々な経験をさせてもらうことができます。インターンシップやOB/OG訪問等で社会人の方とお話したり、



いろんな大学の学生と本気で将来を考えたりした経験は、何物にも代えがたい宝物になりました。

ただし、ただ待っていただけでは何も始まらなかったと思います。たった一歩踏み出せば、人生が変わるような経験が出来るかもしれないのが就職活動だと思います。勇気の一歩を積み重ねてきた人であれば、その姿を面接で示すだけでよいのかもしれません。どうかテクニックで就職活動を乗り切る方法だけでなく、勇気の一歩を積み重ねる方法があることを皆さんには少なくとも知っていてほしいです。

それでは残りの学生生活思いっきり楽しんでください！お読み頂きありがとうございました。

在学生の皆さんへ

海洋工学部 流通情報工学科4年

戸 田 麟 太郎

私が伝えたいことは、「やりたいこと」に向かっていくことについてです。そのために、皆さんには研究、勉強、社会経験などを自身で考えて行う場・時間があります。その中から1つだけお伝えするのは、講義についてです。何を考えて、講義を選び、受けていますか。例えば、単位取得の難易度なども大切な基準ですが……。

1つの考え方としては、将来に役立つように講義を生かすことです。例えば卒論です。その内容に関係する講義を重点的に勉強するといいかもしれません。興味のある研究室の先輩の卒論を読んでもよいでしょう。また、就職に直結する講義もあります。例えば、経済学などは公務員志望の人には、語学は国際的な仕事に携わりたい人には必須でしょう。

みなさんの今、そして将来「やりたいこと」のためには何を学び、研究することが必要でしょうか。大学では先生方・大学職員の方、そして保護者の方のおかげで、勉強や研究の場が整えられていて、その1つが講義という場です。ぜひ、それを忘れずに、自分の「やりたいこと」を見据えて講義を受けてみてほしいです。

最後に、「単位を落とす」という言葉があります。海洋大ですから単位は落ちたら海の底、なかなか拾いに行けません。講義にバイトにサークルなど、忙しい日々を送っている人も多いと思いますが、「やりたいこと」・「なりたい自分」に向かって大学生活を大切に過ごして

ください。



研究室のメンバー（筆者は後列右から二番目）

自分の道をいけ

海洋資源環境学部 海洋環境科学科4年

水野 晶太

10 在学生の皆さん、こんにちは。今年度は特にですが、学生生活は個人の自由時間が多いため自分のやりたいことに没頭できた人、振り返ると時間の使い方が下手だったなと思う人さまざまなのだと思います。私自身はどちらかというと後者に分類される学生だったと思うのですが、それでも実習、サークル、アルバイトなどで様々な経験ができた学生生活でした。現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、各々が思い通りに生活できない日々を過ごしていると思います。その中でも特に3年生の一部は就職活動が目の前に迫り、他人と自分を比べられることに焦りを感じている人も多いのではないのでしょうか。しかし、海洋大生にも十人十色の学生生活があったように十人十色の人生があり、自分とまったく同じ経験をしてきた人はもちろんいません。そのため私は周りと比べずに自分の就職活動を行ってほしいなと思っています。もちろん周りの人と相談し支えあいながら就活を行っていくことは大切です。しかし5、6月になるとSNSなどで就活の終了を告げる投稿をちらほら見ることがあります。自分もそうだったのですが、その場合どうしても焦ってしまうと思います。ですが、自分の就職活動を行うのは他人ではなくあくまでも皆さん自身ですので、周りに置いて行かれたと感じたとしても、しっかりと考え、自信をもって企業に自分をアピールしてほしいと思っています。



乗船実習Ⅱの最中に訪れた函館にて

理想の大学生生活

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科4年

永井 智明

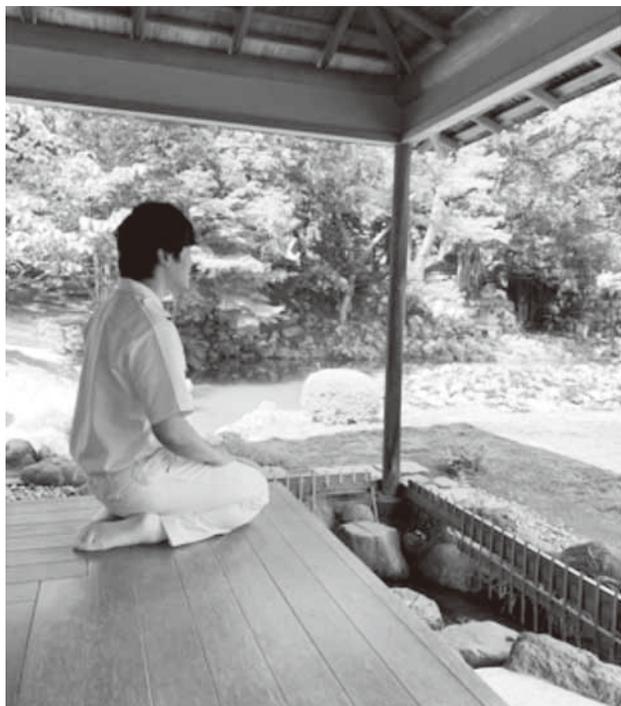
在学生の皆様、こんにちは。大学生活はいかがお過ごしでしょうか。今年は新型コロナウイルスの影響を受け、講義のリモート化、実習やサークル活動、海鷹祭の中止と自分の思い描いていた理想の学生生活を送っていない方も多いのではないかと思います。

私自身、今思い返せば、入学当初に思い描いていたものとはかけ離れた大学生活を送ってきました。そこそこに勉強し、バイトやサークルに明け暮れ、普通の企業に就職、とは行かず、単位を落とし、サークルを辞め、勉強に集中するもすぐには思うような成績が取れずに再履修、と失敗続きの学生生活でした。しかし、失敗以上に新しいことに挑戦した大学生活だったと思います。

大学3年生ともなれば就職、院進と将来のことを考えなければなりません。もちろん自分の学生生活も振り返ることでしょう。その時、思い描いていた自分ではないかもしれません。

しかし、理想通りでないからこそ、これから様々なことに挑戦できるのかもしれない。もちろん大学の講義も大事ですが、大学生という人生において時間を確保しやすい期間を生かして興味を持てる色々なことを学んでみてください。冒頭に話したように、今年は新型コロナウイルスの影響で特に時間を持て余しているかもしれません。これをチャンスと捉え、さまざまな挑戦をし、成功、失敗の経験を得ていただければと思います。何をすることも遅すぎるということはありません。

在学生の皆さんが残りの大学生活を有意義に過ごすことができるよう、少しでも参考にさせていただけると幸いです。



在校生へのメッセージ

大学院海洋科学技術研究科 食機能保全科学専攻2年
鈴木進之介

私が在校生の皆さんにお伝えしたいことは、今しかない今を大切に、そして自分のやりたいことに真摯に向き合って欲しいということです。

今年は感染症の影響もあり、なんでもというわけはありませんが、大学生である私たちは今、勉強、バイト、遊び、どれをとっても自由に取り組むことができる、とても恵まれた環境で生活していると感じます。ですが、そんな生活を支えてくれている仲間や先生方、設備や環境は今しか無いものばかりです。だからこそ、貴重な大学生活では自分のやりたいこと、好きなことに全力で取り組んでみてもらいたいと思っています。

学生のうちにとにかく勉強に打ち込むもよし、アルバイトで色々な仕事を体験するもよし、遊びで仲間との繋がりを深めるのもどれも大切なことです。そうした経験の先にある、自分の未来をどんなものにするのかを選ぶ自由は皆さんのものであり、その未来を受け入れる責任もまた、皆さんのものです。

選ぶ自由があるということは、それだけの責任を負

わなければならないということです。この先勉強が面倒になってしまったり、バイトがつかなくて嫌になってしまうこともあるかもしれません。しかしどんなことでも真摯に向き合えばきっと良い一面が見えて来るはずです。

本学の校歌にあるように、好きなことに好きなだけ取り組めるのは、学生のうちの今しかありません。皆さんの貴重な大学生活が充実したものになることを心よりお祈りしております。



授業で訪問した台湾海洋大学にて（筆者＝左端）



2020年度 旅立ち

卒業特集

卒業、修了する 先輩留学生から在學生へ

悔いのないように

海洋生命科学部 食品生産科学科4年

王 喆 君

12 海洋大留学生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。現在、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るっている時期で、さぞかし大変でしょうね。コロナの収束はまだ見えぬうちに、卒業の時期が徐々に近づいてきます。が、過去を振り返れば、かなり苦労を経験した2020年も含め、日本留学のこの大学四年間は非常に充実で、悔いのない時間を過ごしたと言い切れます。ここで、卒業する先輩留学生として、私なりのアドバイスを伝えたいと思います。

まずは現地に溶け込むようにしてみましょう。知らないことの多い日本へ来て、思わず同僚達と一緒にいたいのも無理のない話です。しかし、何時までも同僚の輪にいと、折角の日本留学は勿体なくないですか？日本社会の文化や習慣を学んだり、日本人学生の友達を作ったり、地域活動に参加したり、日本生活に馴染むには様々な方法があります。近所の方に一言挨拶を交わすのは、いい始まりではないでしょうか。

また、恐れずにどんどん新しいものを試してみましょう。日本では、数多くの「はじめて」を経験しました。それらに成功はあり、失敗もあり、長く続ける趣味になるものがあれば、一回で飽きてしまうものもあります。ですが、全ての体験は無駄なく今の私を構築しました。もし興味のあることがあるのなら、一步踏み出しましょう。自分に潜む新たな可能性を見つけるかもしれません。

以上、拙い文章ですが、皆さんは自分なりに、悔い

のないような留学生生活を過ごせることを祈ります。



迷わず挑戦しよう

大学院海洋科学技術研究科 海洋システム工学専攻2年
孫 汶 成 (SON MUNSEONG)

私は韓国海洋大学の電気電子情報工学部を卒業し、東京海洋大学大学院の海洋システム工学専攻に入学しました。私が所属している研究室ではウニを採捕するロボットの研究をしていました。私はそこで一つのプロジェクトを担当することになりました。このロボットにもっと機能を拡張できるように新たなシステムを開発することでした。このプロジェクトで私は「やればできる」という気持ちをもって挑戦することにしました。

設計から製作まで相当時間がかかり、その過程で様々な苦難がありました。自分の専門である電気電子以外に、機械、材料など、ほかの工学の知識が必要でした。それに機械、電子部品の名前から、現場で使う部品、用語などの自分の知らない日本語の勉強が必要でした。

途中であきらめたくりましたが、「やればできる」という気持ちをもって最後まで挑戦しました。あきらめず最後まで挑戦した結果、実際にシステムを設計、製作、運用ができました。今はこのシステムを基に、ほかの学生の研究も進み、プロジェクトに寄与することもできました。

私は新しいことを始めるときに「やればできる」という気持ちをもって挑戦しています。留学にきて様々な失敗があるかも知りません。ただここは「大学」という学びの場であり、失敗してもその経験をもって、これから失敗ないようにすれば大丈夫だと思います。自分の留学期間の期間の中で新しいことに挑戦することを迷わずに挑戦すればきっと大事な経験ができると思います。



退職の年を迎えて

退職なされる

教職員の方々より一言

定年を迎えて

海洋生物資源学部門 教授

佐藤 秀一

この度、無事、品川キャンパスを卒業する運びになりました。とても楽しかった数十年でした。東京水産大学を卒業し、そのまま大学院修士課程に進学したのですが、修了しないまま今日を迎えてしまいました。これで、やっと卒業できると思うと感無量です。

この間に大学は大きく変わりました。東京水産大学は東京商船大学と統合し、東京海洋大学になり、まもなく20年が経とうとしています。東京海洋大学になったおかげで、学術的にも発展し、有名な科学雑誌にも掲載される論文を書く先生がたくさん出て来るようになり、大変うれしく思います。以前の水産大学では考えられないことです。

私のことに戻ると、渡邊武先生(東京水産大学名誉教授)や竹内俊郎先生(現東京海洋大学学長)、C.Y.Cho先生(ゲルフ大学)、R.Wilson先生(ミシシッピ州立大学)、D.Higgs先生(ウェストバンクーバー研究所)らの素晴らしい先生たちの指導の受け、多くの教員・研究者、学生と楽しく教育・研究生活を送ることが出来ました。本当に感謝しています。

最近、大学の教員や研究者になりたいと思っている学生さんが少なくなってきたようで気になります。大学の教員生活は、会社や役所に勤務する人とは異なった生活を送ることができ、とても楽しいものだと思います。学生の皆さんには是非目指して頂きたいと思い

ます。その為に、大学院博士後期課程に進学して下さい。就職は少し遅くなるかもしれませんが、楽しい研究者生活が待っています。

それでは、東京海洋大学の益々の発展を心よりお祈りしております。

退職の年を迎えて

海洋政策文化学部門 教授

森下 丈二



私が東京海洋大学に来たのは2016年4月からで、その直前は独立行政法人 水産総合研究センター(現国立研究開発法人 水産研究・教育機構)国際水産資源研究所で所長をしていました。その前は水産庁で長く国際交渉の担当をしており、海洋大に来てからも水産庁の国際交渉のお手伝いをしてきました。

その様な経歴ですので、海洋大では、リアルタイムで展開している漁業や海洋に関する国際的な動きを追いながら、実務経験を活かして、将来の海洋分野を支える若者にその一端でも伝えていくことに一役買えることを目指してきました。授業や研究室のメンバーとのやり取りを通じて、情報の一方通行ではなく、今まで扱ってきた諸問題について新たな視点や意見に触れることが出来たことも、私にとっては大きな収穫でした。

海洋生物資源の利用を含めた海洋の問題は、地域漁業管理機関などの専門機関だけではなく、国連や多国間環境協定などより大きな舞台でも広く取り上げられるようになってきています。このような動きは私たちの日々の生活や日本の水産業にあまり影響がないような印象もあるかもしれませんが、グローバル化と地球環境変動の中で国際と国内の区別は急速になくなってきています。まったく目が離せないですし、多くの若い世代にそれを伝えたいという気持ちです。

退職を迎える年齢にはなりましたが、まだまだ悠々自適、晴耕雨読という生活にはならないようです。

定年の年を迎えて



流通情報工学部門 教授
寺田 一 薫

この大学に着任する前の職場でも、その前の職場でも、定年を迎えた先輩を幾度となく見てきたが、「大過なく迎えることができました」と挨拶する人が多かった。そもそも大過なくというからには、迫りくる課題に命がけで取り組んだという前振りがあったべきだが、そんなに働いた覚えがまるっきりない。

研究では大学や社会のニーズよりも、自分の趣味を優先し続けてきた。研究成果の一部を教材に混ぜ、受講者の好奇心をくすぐるよう努力したつもりだが、中身がオタクすぎて学生に十分伝わらなかったような気がする。今から誠心誠意頑張ったところで、退職までに御恩に報いることはおぼつかない。

そんなわけで、今更、偉そうなことはいえないが、一言だけ置き土産を。旧東京商船大学に31年前に着任したとき、こぢんまりとした大学でいろいろと目が届く半面、学生ばかりでなく教職員までも皆、同じようなことを考え、同じようなことをいうものだなと感じた。この第一印象は、大学統合で規模が大きくなって15年以上たった今もあまり変わっていないような気がする。

コロナ禍という厳しい試練のもとで気付いたことは、生きものに備わっているはずの多様性が生きる力になるのではないかということだ。とくに学生の皆さんへのアドバイスは、人と違う意見を臆せずいいなさい、幅広く友達を作りなさいということだろうか。皆さんのおかげで良い時間を過ごすことができたことに心からお礼を申し上げる。

本学での生活を振り返って



海洋環境科学部門 教授
任 恵 峰

私は1991年に中国政府派遣訪問研究員として、初めて旧東京水産大学（食品生産学科）に参りまして、その後さまざまな身分で、約30年間本学で研究・教育活動をさせて頂きました。

このたび、無事に定年を迎えることができたのは、教職員の皆様や学生の皆様に恵まれたおかげです。改めて皆様に心より感謝申し上げます。

本学における30年間を振り返ると、30代は研究活動に専念し、実験室に楽しく籠る毎日でした。主に食品の二次機能に関する研究を行い、また、日中韓の調味料の諸特性を比較してそれらの共通性と独自性を追究しました。40代は専任教員として、研究費の獲得、講義および学生の指導に追われる慌ただしい毎日でした。また、所属は食品生産学科から海洋環境学科に異動し、研究内容も生物機能およびそれを利用した危害成分の制御に関する研究にシフトしました。50代になると、学内での教育・研究だけではなく、外部との共同研究や国際協力機構の技術専門員としての活動にも携わるようになりました。研究活動の方は、水産業廃棄物から有用成分を回収する技術の開発が中心でした。60代は、新たな挑戦として、数種の水生生物を用いて、都市型感潮域底質の汚染実態の調査や紫外線照射が水環境中から検出される医薬品の毒性変化への影響などに関する研究も行っております。

在職中、これまでのキャリアや経験を生かして、本学の国際交流活動に携り、留学生の生活や進路などに関する相談の対応にも積極的に関わってきました。

今後、あと2年間再雇用で勤務させていただく予定ですが、これまでのように楽しく教育研究を続けられればうれしく思います。

これからの東京海洋大学のますますのご発展と皆様方のご健勝を心からお祈り申し上げます。

館山ステーションの15年

水圏科学フィールド教育研究センター館山ステーション 教授
須之部 友基

私は2006年7月1日に水圏科学フィールド教育研究センター館山ステーションに赴任しました。今年度いっぱいまで定年を迎えるので、約15年間館山に勤務したことになります。

赴任する前は千葉県立中央博物館の研究者として魚類の性転換と配偶システムの研究をしてきました。主な業務は収蔵資料の管理・運営だったので野外に出られる機会が少なく、館山に移ってからは大いに野外研究に勤しむことができました。特にスクーバダイビングの施設が整っていることが嬉しかったです。そこで、性転換の研究と共に実験所周辺に出現する魚類の繁殖生態を潜水調査で明らかにしよう、という目標を立て卒業論文、修士論文、博士論文の研究テーマにしました。これまで約50名の学生が巣立っていきましたが、ベラ科、コチ科、ハタ科、スズメダイ科、ウツボ科、ハゼ科、イソギンポ科、ヨウジウオ科、ウバウオ科など多くの魚類の雌雄性や繁殖生態を明らかにすることができました。

定年後は再任用でこのまま2年間勤務する予定です。来年度から新たに修士課程の学生が入学すると、博士課程在学中の社会人院生もいます。また、研究成果は論文として学術雑誌に発表しましたが、まだ投稿していないデータがあり論文発表を急ぎたいです。

この15年を振り返ると館山での活動は多くの海洋大教職員と地元の方々の皆様に支えられてきた、と思います。一人一人のお名前を挙げることはできませんが、改めて感謝の意を表したいです。



潜水調査中の筆者

退職の年を迎えて



船舶・海洋オペレーションセンター 教授
海鷹丸機関長

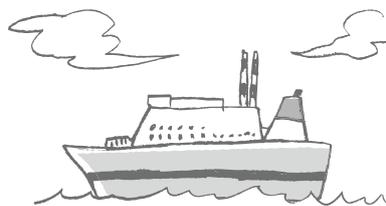
坂本 牧夫

1987年、30歳の時に東京水産大学海鷹丸二等機関士として着任以来、主に練習船の運航業務に携わってきました。

その間、乗船実習では船用設備の構造や作動原理、操作法など、航海士でも知っておくべき機械と電気の基本を教え、海鷹丸機関長を拝命してからはキャンパスでも機関工学の授業を担当しました。海洋調査においては、地味な任務ながら観測装置の保守点検や故障修理に関わり、海洋での様々な発見に多少なりとも貢献できたと思います。海外での船上レセプションも練習船の重要な役割で、ホスト役を務めながら現地の名士と知合いになるなど、仕事を忘れて貴重な楽しい経験をさせていただきました。

一方、愉快的なことばかりではありません。南大洋での特殊航海は責任重大で、なかでも静寂な南極海へ抜けるには大時化の暴風圏を通過しなければならず、命取りとなるエンジントラブルがないことをひたすら願って、大揺れの中で憂鬱な毎日を送ることになります。幸いなことに、乗組員による行き届いた整備のおかげで荒天の中でも機械は順調に回ってくれました。

私にとって記念すべき最後の遠洋航海は、コロナ禍の影響で無寄港の短縮航海となり、クジラやペンギンに会えずじまいで呆気ない幕切れでしたが、何よりも全航海を通して安全運航を成し遂げ、肩の荷を下ろすことができ清々しい気持ちになりました。最後に、東京海洋大学の益々の発展をお祈りし、皆さまのおかげで定年まで漕ぎ着けたことに感謝します。本当に長い間ありがとうございました。



大学院紹介

食品流通安全管理専攻／海洋管理政策学専攻／応用環境システム学専攻

コロナ禍での遠隔授業と オンライン官能検査の試み

大学院海洋科学技術研究科 食品流通安全管理専攻教授／専攻主任
濱田 奈保子

国立大学法人東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科食品流通安全管理専攻は2007年に主に社会人を対象とする専攻として設立されました。今年度で設立13年を迎え、現在までに130名を超える修了生を食品業界等に輩出しており、昨年も、食品関連の新聞社のインタビューを受けたところです（大学院の食品安全専攻コース、リスク管理のプロを多数輩出『月刊 フードケミカル』428(12), 4-5, 2020）。

本専攻は2018年度に「職業実践力育成プログラム（BP）」に認定され、2019年度に厚生労働省の教育訓練給付制度が適用される「専門実践教育訓練」の講座指定を受けたことにより、今後ますます、食品関連産業のニーズを反映しつつ、社会人のリカレント教育を中心に据えた教育活動を展開していくことになりました。職業実践力育成プログラム（BP）認定制度とは、文部科学省が大学・大学院・短期大学・高等専門学校における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを認定することにより、厚生労働省の教育訓練給付制度とも連携し、社会人の学び直しの推進を図るために2015年度から設けられた制度です。受講開始時に一定の要件を満たす場合、働く方の主体的な能力開発の取組み又は中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とし、教育訓練受講に支払った費用の一部が支給されるもので、2020年度4月に本専攻に入学された方より適用が可能となりました。

昨年度からの全世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響は大学での教育・研究にも大きな影響を与えています。私自身は化学と微生物実験を主体とする研

究者であり、緊急事態宣言が出された時期は、実験室を閉鎖する事態に陥りました。このような状況の中にあっても、4月当初の専攻独自のオリエンテーションを、専攻教務委員の柴田真理朗先生のご尽力のお陰もあり、Zoomを用いた遠隔リアルタイムのオリエンテーションとして実施することができました。また、ゴールデンウィーク明けからはリアルタイム授業とオンデマンド授業を組み合わせた遠隔授業を開始しております。

本専攻は、大学等で生物学、化学、工学等の理系を履修した方および経営学、経済学、法学等の文系を履修した方を対象とした食品流通安全管理者としてのステップアップコースの大学院として設置されたため、バックグラウンドが異なる人材が食の安全・安心について様々な角度から議論するケースメソッド授業を専攻開始時から提供してきました。小川美香子先生はケースメソッド授業の推進役としてZoomのブレイクアウト機能を用いたグループワーク授業に取り組み、他の教員とノウハウを共有することでオンラインでのケースメソッド授業を展開されていますが、受講者からは、対面とほぼ同等の議論ができたという評価を聞いております。また、本専攻は、東京から遠く離れた地域からの受講者や仕事でご多忙の方も多いため、来学せずに遠隔で授業に参加できるようになったことにより、時間を有効に使えるという声が多く寄せられています。



コロナ禍での研究の模索について、現在、社会人学生として博士前期課程2年次に在籍されている柳澤達男さん（写真）のオンラインでの官能検査の試みについて紹介させていただきます。柳澤さんは「味覚識別能力の向上を目的とした訓練方法の構築」という研究テーマに取り組まれています。被験者が目の前のPC画面より、別室にいる柳澤さんの指示を受け、非接触で試験を実施するというコロナ禍



での新しい官能検査のやり方を提案されました。本専攻に所属する20代の被験者の学生達にとっては、新しい様式の官能検査のやり方を学ぶだけでなく、食品会社において長年勤務された柳澤さんの経験談も何う等、遠隔ではありますが、世代の異なる学生同士の交流も貴重な経験になったと思われます。

数年前から、修了生が兼任教員（非常勤講師）として採用され、ロールモデルとして、後輩指導にあたってくださるのは大変有難いことであり、国立大学協会の広報誌においても、リカレント教育特集記事として取り上げられました（社会的実践を学ぶケースメソッド授業で食のリスク管理のプロフェッショナルを養成する『広報誌 国立大学』49,11-12,2018）。国立大学はますます厳しい状況を迎えておりますが、「専門実践教育訓練」の講座指定が本専攻の追い風となることを期待します。

国際資源管理機関会議に参加して 成長する学生達

大学院海洋科学技術研究科 海洋管理政策学専攻 教授
北 門 利 英

本学の前期博士課程の一つである海洋管理政策学専攻は、海洋資源の利用と管理を望ましい状態に変革するアクションプランの立案を目指した新しい学問分野です。特に私が担当する水産資源解析学では、漁業や調査のデータを駆使した水産資源の評価方法と管理方法について教育研究を行っています。本専攻に所属する大学院生の活躍例には学会での研究発表など様々な形がありますが、ここでは私の研究室を例に国際会議での活動を紹介したいと思います。

私が2003年から関わっている国際捕鯨委員会(IWC)では、2010年から北太平洋においてIWC-POWERと

いう鯨類生態系調査を実施しています。この調査から得られる貴重なデータのの一つが鯨類目視記録で、私がこの調査の技術諮問グループの議長を数年にわたり務めた関係で、研究室に所属する大学院生達が、大型鯨類から海洋漂流ゴミまで広範に資源量推定を担ってきました。担当学生は毎年開催されるIWCの国際ワークショップにて資源量の推定結果を報告しますが、得られた値が今後の当該資源の保全と管理に使われることも多く、学会発表とは異なり質疑時間は長く微に入り細に入り行われ、また期間中やその後にも宿題がでるため、英語によるインタラクティブな対応能力も養成されてきたと思います。

次にまぐろ類の例に移りますが、私が現在科学委員会の議長を務めるインド洋まぐろ類委員会(IOTC)では20以上の種に対して資源評価の実施と資源管理の提言を行っています。まぐろ類で利用される資源評価手法には様々な方法がありますが、最先端の手法による評価は様々な仮定やデータに依存しすぎる傾向があるため、それとは異なる方法を利用した検証も必要となります。そこで、研究室に属する本専攻の大学院生を中心とした6~10名程度のチームを構成し、ビンナガや浅海性まぐろ等を対象に資源評価を実施し、その結果をIOTCに報告をしてきました。私と学生との連名とはいえ、正式な会議ドキュメントを国際会議へ提出することから、緊張感を持った作業を強いられることにはなりますが、そのぶん彼らにも責任感と連帯感が芽生え、やりがいのある作業となったと考えています。

最後に近頃不漁が取りざたされるサンマについてです。2015年に北太平洋漁業委員会(NPFC)が新たに発足し、その事務局が本学白鷹館に設置されていることも多くの方がご存知かと思います。サンマについては、現在、日本、中国、そして台湾が独立して資源評価を実施し、その結果をNPFCサンマ小委員会に持ち寄り議論を行い、これらをまとめる形で本委員会に結果が報告され、加盟国全体での総許容漁獲量が決定されます。日本側は私の学生1~3名と私との共同で解析し会議ドキュメントを提出しています。サンマの資源評価は大変難しく不確実性が大きいのも事実ですが、その難しさを客観的に示すことも科学者としての重要な仕事と位置づけ、学生諸氏には修論や卒論の研究材料として取り組んでもらっています。3か国の資源評価方法や結果について対立する議論も多く、また資源状況も決してよくないことから心理的負担も大きい作業となることも事実ですが、資源評価に関わる技術の向上と実践力養成には貴重な場だと考えています。

以上、駆け足で私の研究室学生の活動例について紹

介してきました。国際会議の議論は語学力や瞬発力も必要で、正直に言うと重要な議論では彼らはほぼ裏方の資源計算に回ります。したがって、今後はディベート力を養成する機会を増やすことも私自身の教育上の課題ですが、国際舞台にて少なからず貢献し活躍することは私が学生だった頃には全く考えられず、若者は経験を通していくらでもたくましく育つものだとつくづく感じる次第です。これから先も我こそはと思う学生さんが現れることを楽しみにしています。

大学院博士後期課程 応用環境システム学専攻

海洋電子機械工学部門 教授
章 ふえいふえい

本専攻は、本学における工学分野の博士後期課程を受け持つもので、品川キャンパスにベースを置く海洋環境学、産業政策文化学、品川と越中島キャンパスにまたがる環境保全システム学、越中島をベースとする、海洋利用システム学、ロジスティクス、海洋機械システム学、うみそら研と連携する海上安全テクノロジー、JAMSTEC（海洋研究開発機構）と連携する海洋探査・利用工学の専攻分野から構成されます。

それぞれの専攻分野の詳細は大学院のパンフレットに譲りますが、例年、博士前期課程に進学した学生の数%が本専攻に進み、修了後、大学教員として、研究機関あるいは民間において研究職に就いています。また、留学生の比率が高いこともこの専攻の特徴と言えます。

昨今、それぞれの分野における問題が高度化・複雑化しており、従来は、学部あるいは博士前期課程において修得した技術を基に、実務経験を積んで直面する問題の解決に当たってきたものが、最新の見識と最新のツールを使いこなすことで初めて問題へのアプローチが可能になるという厳しい状況に変わってきたことから、各専攻分野の最先端技術を修得する本専攻の意義が高まっているということが出来ます。

大学4年、博士前期課程2年、さらに、博士後期課程3年という大学での時間は、皆さんがこれまで過ごしてきた学びの時間の中では重くのしかかる長さを持つように感じるかもしれません。しかし、そのあとの仕事の時間は30年以上です。私たちはこれに耐えなければ

ならないことを考えると、決して長くはないとも言えますが、個々の事情により、後期課程まではと考える人も多いのではないのでしょうか。ただ、大学院は門戸が開かれていますので、皆さんが必要な時に利用できる場であると考えてください。会社で仕事をしながら後期課程に入る人もいます。しかも、それを認める制度を持つ会社も増えています。また、修了のための期間も会社での実績を踏まえ短縮が可能です。規則では、1年以上在籍し、条件を満たせば短縮可能となっています。

学部は、3年で卒業でき、博士前期課程は1年で修了、後期課程は2年で博士号を取り修了できますので、合計6年。こう考えると、決して長すぎる時間ではないと思います。

ですから、「大学では時間を有効に使うことを心掛けてほしい」。これは新入生に接するときいつも私が口にする言葉です。

少年易老学難成
一寸光陰不可輕
未覺池塘春草夢
階前梧葉已秋声

子供のころ教わった漢詩ですが、これをもって応用環境システム学専攻の紹介とします。





グローバル人材育成プログラム

第14期シンガポール隊

海洋資源環境学部 海洋環境科学科2年

齋藤 瑞月

私は、学部2年の春休みを利用して第14期生として海外探検隊に参加し、約1か月間シンガポールに滞在しました。

シンガポール国立大学(NUS)ではサンゴの幼生に関する研修・研究を行いました。研修内容が充実していたのはもちろんですが、NUSでの研修では学内の様子が強く印象に残っています。キャンパスは学部ごとに区画が分かれており、巡回バスを利用しても10分以上掛かる場面も多いほど広大でした。また、各建物には学生同士が集まれるようなテーブルと椅子が設置されており、朝早くからレポートを進める学生や、活発に討論する学生の姿を見かけました。どこを見ても活気にあふれていて、アジアNo.1大学の姿を見せつけられました。

海外探検隊を通じて、海洋に携わる多くの方々との交流がありました。大学卒業後の進路について深く考えるきっかけとなったとともに、自分もいつかは今回出会った人たちのように産業界を支えたいという明確な目標ができました。

また、シンガポールをはじめとするアジア各国の情勢や輸送コンテナなどを身近に感じるようになりました。たとえば社会問題は私にとっては大きすぎるテーマですが、身近な事柄について自ら考え、行動することが、そのような問題に自分が関与するきっかけの一つになると感じました。

コロナ禍において海外研修を体験したことで、このプログラムが多くの方々との協力によって成り立っていることを一層強く感じました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。



NUSの町並み

海外探検隊での体験

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科2年

稲葉 飛多紀

私は、学部1年の3月に本校の海外派遣プログラム、海外探検隊に14期生として参加し、約1ヶ月間シンガポールで様々な経験をする事ができました。現地では、2週間お世話になった観賞魚の輸出入を扱うQian Hu社、1週間研究室に参加させていただいたシンガポール国立大学をはじめ、3つの企業、2つの大学、国家機関で研修を行いました。

最も長い期間研修をさせていただいたQian Hu社では、仕入れた観賞魚を水槽に入れるところから、出荷するために箱に詰めるまで、全ての工程に参加させていただきました。普段何気なく目にしている観賞魚がどのような過程を経て私たちのもとへ来るのかを身をもって知り、一連の作業の中で生き物を商品として扱うことの難しさを学びました。また、受け入れを担当して下さったマネージャーの方から作業を指導して下さったワーカーの方まで、幅広く交流の場を得ることができる、海外探検隊ならではの貴重な体験をすることができました。

今回のプログラムは、自分が大学で学んでいる内容とは直接的な関係はありませんでしたが、その全てがどこかで繋がっていると常に感じていました。特に強く実感したのは、プログラムの最終日のコンテナ事業を手掛けるOcean Network Express社での研修です。コンテナを輸送するという一つの目的に対して、取り組むアプローチがいかに多様であるかを知りました。物事を多角的に捉える姿勢は、私も積極的に見習っていきたいと思います。

最後になりますが、コロナ禍の不安定な情勢のなか、このような機会を提供して下さった全ての皆様に、心から感謝しています。



一番右が筆者



海洋工学部国際交流プログラム

新たな世界を感じた7日間

海洋工学部 海事システム工学科3年

相川 航輝

2020年3月初旬、私は商船三井と現地企業のマグサイサイグループが共同出資するMOL Maritime Academy(MMMA)という船員育成学校に訪問させて頂きました。MMMAは2018年に設立された非常に新しい学校で、フィリピンの船員育成学校では珍しく軍隊式の教育を行っていない学校でした。そのため学生たちは非常に個性豊かで自主性に富んでいました。

MMMAでは日本からの留学生は私たちが初めてということもあり、非常に歓迎して頂きました。休み時間になると積極的にフィリピンや自分達のことを教えてくれました。放課後には課外活動に誘われ、一緒に運動をするなどして交流を深めることができました。最終日前日の夜には文化交流会を開いて頂きました。フィリピンの歴史に関する劇を行ってくださったのですが、凝っているながら愉快で最後には踊りに参加させて頂き、非常に貴重な体験ができました。

MMMAは施設の面も非常に優れており、学生たちは環境に恵まれていました。船を模した実習棟は本物の船と同様の位置に各実習施設が存在し、実運用の高さに近い救命艇の降下設備や揚錨施設などもあり、実習環境の充実さに驚きを感じました。

7日間のフィリピンでの体験や交流は実りのあるものとなり、フィリピンに非常に親しみを感じるようになりました。今回の交流で得たものは今後の人生でかけがいのないものとなると思います。コロナ禍直前の開催が危ぶまれる中でしたが、実施して頂き、このような機会を与えてくださったことに感謝しております。本当にありがとうございました。



現地の学生との交流（筆者中列白い服の一番左）

MMMAインターンシップに参加して

海洋工学部 海洋電子機械工学科3年

影山 太郎

私は、2020年3月、フィリピン商船学校MMMAにて、約1週間のインターンシップに参加しました。参加した理由としては、同じ船員を目指すフィリピン人学生との交流を通じて、英語学習の重要性を再認識し、学習意欲をより高めることができると考えたからです。

インターンシップの内容としては、MMMAにて、約1週間の学生生活を送り、その生徒と共に授業や実習を受けるというもので、私は機関係のことを中心に、様々なことを学びました。私が特に印象に残っている授業は、機械工作の授業です。この授業では、グラインダーを用いた金属の研磨や切断、また様々な溶接機を用いた金属の溶接の仕方を学び、体験しました。私は、先生や学生たちに教わりながら、それらの実習をしましたが、学生たちは、先生の手も借りずに要領よく金属を加工していました。私はそんな彼らの手先の器用さ、技術力の高さに驚きました。

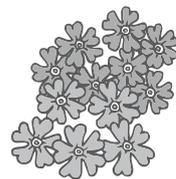
また、授業時間だけでなく普段の生活においても、印象に残っているのはやはりMMMAの学生たちです。彼らは、私たち日本人が普段の生活や授業で困ったことがあっても、いつも親切で、迅速に対応してくれました。また、彼らは、非常に友好的で、休み時間にもなるとMMMAのことやフィリピンのことについて熱く語ってくれました。私はそんな彼らとの交流から、国籍を超えて夢を共有する仲間とのネットワークを構築することができ、今後の学生生活での勉学の励みに繋げることができました。

最後になりますが、このような素晴らしい体験をさせていただいたMMMAの皆様、素晴らしい機会を設けてくださった海洋会、（株）商船三井の皆様にご心より感謝申し上げます。



機関科の学生と機械工作実習にて

卒業生より



業界で活躍している OB・OGの方々

地方自治体の水産職として働いて

2010年3月 海洋科学部海洋生物資源学科卒業
2012年3月 大学院海洋科学技術研究科海洋生命科学
専攻修了
2013年4月 神奈川県に水産職（技術職）として入庁
2015年3月 大学院海洋科学技術研究科応用生命科学
専攻退学

田村 怜子

皆さんは地方公務員の水産職にどんなイメージがあるでしょうか。実は私自身、学生時代に就職先として公務員という選択肢は全く考えていませんでしたが、大学内外の先生に「あなたは水産試験場が向いている」というお話があり、地元である神奈川県の水産職を受験しました。しかし今では、水産業に携わる現場の人たちの役に立つ仕事がしたいと思っていた私にとって、地方自治体の水産職は仕事が現場に直結することが多

く、本当にやりがいのある仕事に就けたと思っています。

少し戻って、大学時代のお話ですが、卒論では遺伝情報の統計処理による父系解析をテーマとした研究、大学院では定置網における海亀の脱出装置の開発に関する研究を行っていました。博士後期課程は1年のみ在国内でしたが、イギリスで開かれた国際学会（WFC）で発表する機会をいただき、自分が取り組んでいる研究を海外の方々に知っていただくという貴重な経験をしました。

その後、神奈川県に入庁してから、水産課、水産技術センター、相模湾試験場と7年の間に3カ所、4つの担当を経験しました。そのため、こなした業務内容も許認可業務、大学包括連携協定に関する業務、研究予算の取りまとめ業務、漁師さんたちの相談役のような普及業務など、多岐にわたります。このように、地方の水産職が扱う業務は行政・研究ともにとっても広い



漁師さんたちと行ったハマグリ調査（左から5番目が筆者）



江の島沖でドローンによる定置網の撮影

ので、何かにつけて大学で学んだ専門の基礎知識がとても役立っていると感じます。

現在は研究業務で漁具に関する防災や改良を担当していますが、大学院時代に研究室で勉強・実験してきた漁具に関する知識がまさに生きています。また、回流水槽を用いた模型網の実験方法について、県の研修制度を活用して大学院生時代にお世話になっていた研究室でご指導いただく機会もあり、充実した研究生活を送っています。

やはり、はっきり覚えていなくても、大学時代に一度学んだことは部分的にでも覚えているものです。ですから、ぜひ大学で用意されている専門科目について、幅広く学んでみてください。社会に出てから意外なところで知識が役立った、という喜びをぜひ味わってほしいと思います。

大学時代と研究職10年間を振り返って思うこと

2006年3月 水産学部食品生産学科卒業
2008年3月 大学院海洋科学技術研究科食機能保全科学専攻修了
2011年3月 大学院海洋科学技術研究科応用生命科学専攻修了

七 崎 裕 介



皆さん、こんにちは。

日本たばこ産業株式会社(JT)R&Dグループで働いて10年目になる七崎裕介と申します。私が東京海洋大学を卒業してからの話をする前に大学時代のお話から少々語らせていただければと思います。

私が本校に入学したのは東京水産大学で、大学2年当時に東京商船大学と統合し、東京海洋大学に名前が変わっても、当時は何気ない楽しい大学生活を送っていたのを記憶しております。大学受験は生物を選択していたので微生物に興味がありましたが、食品工学にも興味を持ったため、研究室は工学を主とする食品プロセス工学研究室に所属し、微生物の殺菌や食品製造機器の洗浄について研究していました。そのまま修士課程、博士課程まで進ませていただいたので、研究室には6年間もお世話になりました。

そこから、私になぜ、日本たばこ産業に興味を持つ

たかという、研究、学会以外にも様々なことを多忙に任されてストレス過多になった修士課程の時期に、「吸ってみろよ」と同僚に言われてタバコを吸ってみたら不思議とくつろぐことができ、物事がスムーズに進むようになったからです。たばこには不思議な魅力があると感じて、そこから私は愛煙家の道を歩むことになり、次第にたばこを扱う会社であるJTで働きたいと思うようになりました。また、博士課程で海外派遣インターンシップを経験したのが、企業就職を決めた理由でもあります。博士課程まで進むと、企業就職は難しくなりますが、就職活動時は修士課程の後輩たちに混ざりながらプライドも捨て、必死に就職活動をして、最も働きたいと思っていたJTに就職することができました。

会社に就職してからも正直大変でした。如何せん9年間も食品のことしか学んでこなかった人間が多様な分野(葉たばこだけでなくその加工処理、フィルターや紙の材料やエアロゾルなど)に精通する会社で働くには、一から勉強することがあまりにも多く、今でも勉強させていただいております。そんな私でも研究開発に携わることができ、最近では加熱式たばこの開発に貢献することができました。それ以外にも葉たばこ原料の加工、フィルター設計やエアロゾルといった研究開発にも携わり、大学時代よりも幅広い経験を積むことができ、40歳手前の今でも好奇心が出てきます。

大学時代を振り返ると、研究のイロハから教えていただいた故・崎山教授、萩原教授(当時准教授)に始まり、「研究室にばかりいないで外の世界を見て来なさい」と私を導いてくれた渡辺尚彦前教授、企業就職に力を貸していただいた川島孝夫前教授には大変お世話になりました。今でもたばこを吸いながら当時のことを思い出します。

現在在籍する本学の後輩たちにもさまざまな分野に興味を持って多様な分野で活躍していただきたいと期待しながら、本文の最後とさせていただきます。



新任教員の紹介



食品生産科学部門 助教

耿 婕 婷

2020年4月に食品生産科学部門の助教に着任した耿 婕婷（コウ ショウテイ）と申します。出身は中国の安徽省です。本学の大学院で博士学位を取得後、食品の民間企業で4年間惣菜などの商品開発の仕事に携わってきました。この度は母校の出身研究室の助教として着任することができまして、とても光栄でございます。

今まで、食品加工の視点から水産食品品質向上に関わる研究を行ってきました。具体的に、イカ肉乾製品製造中褐変のメカニズムから着目、保存製品色調保持および改善技術に関連する研究を取り込んできました。また、未利用水産物有効利用の観点から、醤油原料としてワニエソ内臓など加工廃棄物の利用法についての研究を行ってきました。今後、いままでの水産加工に関する研究内容を継続し、深めていくと同時に、食品開発の現場経験を活かし、社会・地域で解決が望まれる問題について学生の皆さんと一緒に研究していきたいと思っております。

授業は食品貯蔵学を担当しています。食品貯蔵学は食品の劣化現象と貯蔵原理を解析整理し、適切な対応策を帰納的に導き、貯蔵・加工技術の向上に資することを目的とする学問であります。食品に関する研究あるいは開発にとっても役に立つ知識です。

私は8年間の留学経験があり、その経験を活かして、留学生達と教員たちとの懸橋になりたいと願っています。今後、大学の教員として世界中の食品問題を解決できるよう、優秀な学生を世の中に送り出したいと思っています。どうぞよろしく願いいたします。



食品生産科学部門 助教

田 中 誠 也

令和2年10月1日付で食品生産科学部門の助教に着任いたしました田中誠也と申します。専門は食品化学・食品機能学・分析化学で、学生時代はラットを用いてポリフェノール的一种であるケルセチンの吸収と代謝を研究していました。LC/MS/MSを用いて血中濃度を測定している中で分析の重要性や面白さを感じ、修士課程修了後は、分析機器メーカーにて5年半HPLCやLC/MS/MSの分析業務に携わりました。特にアミノ酸、有機酸、ビタミン、脂質、環境汚染物質等を対象とした新規分析法開発や感度向上のための分析法検討を担当してきました。また社会人として働きながら出身大学で博士号を取得しました。分析機器メーカーで働いた5年半の間に様々な分析の経験を積むことができましたが、会社ではできないさらに詳細な検討や、新たな分析法の開発、食品成分の吸収・代謝・安定性・機能性等の未知な事象の解明をしたいと思い、アカデミックの道を考えていたところ、本学の助教として着任する運びとなりました。

本学では、脂質の安定性や吸収、代謝、蓄積を詳細に調べていくこと、また機器分析を使ってこれまで分析できていなかった脂質の分子種分析を進めていく所存です。同時に、日頃の授業や研究活動を通して研究の面白さや分析の重要性とノウハウを学生の皆さんに知って頂き、今後の人生に役立たせてもらえれば幸いです。みなさんとお会いできるのを楽しみにしています。



海洋政策文化学部門 准教授

今村 圭介

令和2年10月1日に政策文化学部門の准教授に着任した今村圭介と申します。

本学に着任するまでは5年ほど、東京医科歯科大学教養部の助教として教育・研究に携わり、主に留学生の日本語教育と学部生の言語学の授業を担当しておりました。医科歯科大と海洋大は全く異なる専門の大学ですが、専門に特化した小規模大学という点では共通していて、似ている部分も多いような気がします。多様な国籍の大学院留学生が在籍している点も共通しているので、医科歯科大での経験も活かし、留学生が過ごしやすい環境を少しずつ作っていきたいと思います。

専門は日本語学・社会言語学で、特に日本語関連の言語接触について研究しています。近年ではパラオを中心にミクロネシアに残存する日本語の変種や、現地語に取り入れられた日本語借用語について調べています。ミクロネシアというとあまり馴染みのない人も多いと思いますが、日本統治の歴史があり、言語的・文化的影響が今なお残っています。海洋関係でも日本統治によって商業漁業が発展した結果、例えばパラオ語ではカツオ、イワシ、マグロ、竿、大漁、生簀など日本語の借用語が使われます。そのような文化接触がどのように語の借用につながるのか、また借用語によって文化交流史をどのように明らかにできるのかを考えています。

言語学専門の者として海洋関係の知識はほとんどありませんが、皆さんと共に学びながら、これまで取り組んでこなかった研究にもチャレンジしたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



海事システム工学部門 助教

笹原 裕太郎

令和2年7月1日付で海事システム工学部門の助教に着任しました、笹原裕太郎と申します。私は平成29年に本

学で学位を頂き、その後、鉱物資源開発に関する独立行政法人で約3年間勤務していました。この度、ご縁を頂き母校で教員として働くこととなり、大変光栄であるとともに身が引き締まる思いです。

私の専門は船舶海洋工学で、主な研究対象は海洋再生可能エネルギーの一種である波力エネルギーを利用した波力発電装置です。波力発電装置はコスト面で商用化はまだ遠いのが現状ですが、離島の分散型電源としての利用や、波を吸収し装置後方に静穏海域を創出することで養殖やレジャー等の海洋空間利用を促進できる技術であると期待されています。

波力発電装置の商用化に向け、私は現在、装置の波力エネルギーの吸収効率や荒天下での安全性を精度良く予測できる解析手法を、粒子法という数値シミュレーション手法を用いて開発することに取り組んでいます。

加えて今後は、本学の特色を活かし、運航者のための船舶海洋工学に関する研究にも取り組んでいきます。

これらのテーマに興味があれば気軽に声をかけてください。意欲ある方はぜひ一緒に研究を進めていきましょう。

また、授業関係では、船の運動や強度関係の科目のほか、短艇実習で関わる機会があると思います。皆さんの関心を引く授業となるよう工夫したいと思います。

最後になりますが、1日も早い新型コロナウイルスの終息を祈り、キャンパスで皆さんとお会いできることを楽しみにしています。





海洋資源エネルギー学部門 教授

Yuttana Theparoonrat

I was born in a small fishing village nearby the mouth of ChawPhraya river, Southern part of Bangkok, Thailand. Our family are a coastal small-scale fisherman with fishing around coastal waters. From time to time, I join with my father to go out to fishing since a young boy. My impression on fisheries bring me to study at the Department of Marine Science, Faculty of Fisheries, Kasetsart University, Bangkok. I join with the Southeast Asian Fisheries Development Center (SEAFDEC), Training Department after my graduation. SEAFDEC established in 1968 with 10 ASEAN members countries and Japan now. In the previous day, the priority of Training Department is to develop and promote on the marine capture fisheries to member countries. We conducted several training courses on fishing gear technology, marine engineering, and navigation etc. Since, the organization supported by Japanese Government, then many of Japanese experts were invited to be trainer during the training programs. I continue my study on master and doctor degree at Tokyo University of Fisheries, Japan with specific subject on the hydro-acoustic for fisheries resources assessment. SEAFDEC also conducted a program on fisheries resources and oceanographic survey in the South China

Sea by using our training and research vessel, M.V.SEAFDEC, 1200 gross tons. The survey program invited all member countries scientist to join during onboard survey in member countries waters. This is a good opportunity for all member countries to working together onboard, share information, cooperation and making strong connection among them. Presently, SEAFDEC still promote more strong coordination and cooperation among member countries in several fisheries concern issues. SEAFDEC also cooperated with several Japanese University such as TUMSAT, Hokkaido University, Tokyo University, and Shimonoseki University on the training and research activities. I am eager to share knowledge and experiences on working with ASEAN countries scientist with TUMSAT staff and young peoples to learn and exploring on the cooperation among the ASEAN member countries.



実行委員長から

海鷹祭の紹介



次回の海鷹祭にご期待ください

第61回海鷹祭実行委員会委員長
海洋生命科学部 海洋生物資源学科3年

津山 透

2020年10月30,31,11月1日に開催予定でした第61回海鷹祭実行委員長を務めてまいりました、津山透と申します。

第61回海鷹祭が本来開催される約半年前の6月に、開催中止の決断をしましたが、それ以前から、協賛して下さる企業の方や毎年海鷹祭に来てくださる一般の方から第61回開催に向けて協賛のお話、開催を心待ちにしているといった連絡をいただき、何としても開催させたいという思いでありましたが、このような形になってしまい、委員としてとても残念で、悔しい気持ちです。

毎年海鷹祭に足を運んでくださる方も増え、今回も

60回よりパワーアップした海鷹祭を開催するため、新しい企画などを考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、SNSなどによる質問コーナーのみにとどまり、開催することは叶いませんでした。毎年海鷹祭の開催を心待ちにしてくださる方々の期待に沿うことができず、申し訳ございませんでした。

我々3年生は今回の海鷹祭をもって引退し、次の代へと引き継いでいるところです。次の代を任せている2年生は、委員長の私が見た中では、我々3年生よりも海鷹祭に対する情熱が強く、次回の開催の際には、どのような形になっても、何倍もパワーアップした海鷹祭になると確信しています。

最後になりますが、毎年海鷹祭を応援して下さる企業、組合の皆様をはじめ、毎年の開催に際し、ご協力いただいています地域の方々、本学の学生の皆様には、厚く御礼申し上げます。次回の海鷹祭が開催される際には、ぜひご期待ください。ご来場お待ちしております。



(後列左から6番目が筆者)

学生の

課外活動報告

潜水部

海洋資源環境学部 海洋資源エネルギー学科3年

部長 佐藤 新

私たち潜水部は、本学の館山坂田ステーションを利用した合宿や、伊豆でのダイビングを中心に活動しています。一人一人が安全なダイビングが出来るよう、ダイビングスキルの練習やダイビング経験を積むことが主な活動内容になります。

3月の活動を最後に、活動を自粛していましたが、11月になりオンラインで66代になる新入生を迎え活動を再開致しました。現在は館山ステーションの利用の禁止、宿泊を伴う活動の禁止を受けて、伊豆を含めた都内近郊のダイビングポイントでの日帰りダイビングを行っています。冬場は気温水温共に低下するため、今出来ることとして屋内ダイビングプールでの練習を予定しています。

コロナウイルスの煽りを受けて、世の中と同様に私たち潜水部も、活動の主となる合宿を行えないという弊害を伴い、大きな転換期を迎えました。長らく活動できずにいたことによる課題は未だ多く残りますが、スキルアップを目指し、何よりも楽しく安全にダイビングが行えるよう活動して参ります。



男子カッター部

海洋工学部 海事システム工学科3年

主将 小林 彦太

私たち男子カッター部は、クルー21名・マネージャー5名で、越中島キャンパスのポンドから隅田川に出て練習しています。主に週4日で平日は放課後、休日は朝から夕方まで活動しています。大学のカッター競技は、救命艇を競技用に改良したものを、艇長1人、艇指揮1人、漕ぎ手12人で2000mを漕いでタイムを競います。ボートと異なり、オールは1人一本で、長さは4mを超えます。究極のチームスポーツであり、キング・オブ・マリンスポーツとも呼ばれています。

私たちが出場する大会は、5月中旬の全日本大会、11月末の東日本大会であり、全日本大会で優勝することが最大の目標です。今年度は新型コロナウイルスの影響で3月から活動を停止し、また、全日本大会、東日本大会共に中止となってしまいました。現在は、フェイスマスクを装着するなど感染防止に十分留意しながら11月より活動を再開しています。未だ感染拡大が収まらず、不安が増す日々ではありますが、精力的に活動していきたいと思えます。



ニュース & トピックス

「令和2年度父母等懇談会」を開催しました

●越中島キャンパス

令和2年10月24日（土）に海洋工学部父母等懇談会を行いました。今年度は感染症対策のため従来行っていた、海王祭期間中での実施ではなく、オンライン会議システムWebexを使用しての実施としました。事前に郵送により通知したところ、参加希望者は127名で、当日は131名の方々に参加していただきました。

当日は東海理事・副学長（教育・国際担当）の開始挨拶から始まり、東海理事、庄司副学長（広報・学生支援担当）の大学におけるコロナウイルス対策や就職の様子など現状の説明と、井関海洋工学部長の事前に

寄せられた、ご意見に回答する形での海洋工学部の教育についての説明までを、参加者全員に対して行いました。

後半は学科ごとに分かれて、質疑応答を行いました。各学科では、寮生活や就職活動、乗船実習についてなどの質問に丁寧に回答しました。

Webでの開催は遠隔地に住む保証人の方々には参加しやすかったとのご意見をいただきました。今後もオンラインでの参加も可能な実施形態を検討する予定です。

●品川キャンパス

令和2年11月17日(火)～23日(月・祝)に品川キャンパス父母等懇談会が開催されました。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、事前の参加申込みによるオンライン(オンデマンド)での開催となり、東海理事・副学長（教育・国際担当）、庄司副学長（広報・学生支援担当）、田中海洋資源環境学部長による大学の現況、学生支援、学部教育についての説明動画を本学校友会の校友限定ページにリンクしたYouTubeに掲載しました。また、質疑応答については、

事前に質問を受け付け、回答文を説明動画とともに掲載しました。

例年とは異なる方法での開催となりましたが、111組の父母等の方々から参加申込みがあり、大変有意義な懇談会となりました。

なお、海洋生命科学部では、学部独自の取組として、令和2年11月29日(日)に希望者を対象にリアルタイムでの父母等懇談会を開催しました。



令和元年度3月期及び令和2年度9月期 学生表彰授与式を行いました

令和元年度3月期及び令和2年度9月期学生表彰授与式を、令和2年9月25日に品川キャンパスにおいて行いました。

令和元年度3月期の受賞者は、優秀な学業成績をおさめた学部学生8名、研究活動において特に顕著な研究成果をおさめた大学院学生15名、課外活動において優秀な成績をおさめた学生団体1団体及び社会活動において優れた評価を受け、かつ、本学の名譽を著しく高めた学生団体1団体です。

また、令和2年度9月期の受賞者は、研究活動において特に顕著な研究成果をおさめた大学院学生3名及び早期修了学生2名です。

受賞者に対して、日頃の努力を称え、表彰状及び記念品を授与しました。

令和元年度3月期学生表彰授与式については、令和2

年3月の開催が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっており、この度、あらためて在学中の受賞者の出席により行いました。

また、今回の授与式は、新型コロナウイルス感染症の予防対策として、会場とオンラインの併用により行い、2名の受賞者がオンラインにて出席いたしました。



オンラインにて出席の受賞者



竹内学長（前列中央）と令和元年度3月期受賞者



竹内学長（前列中央）と令和2年度9月期受賞者

令和2年度9月期学位記・修了証書授与式を行いました

令和2年度9月期学位記・修了証書授与式を、9月28日（月）に越中島会館講堂（越中島キャンパス）にて挙行了しました。

今年度の9月期卒業生・修了生は、学部卒業生4名、乗船実習科修了生46名、博士前期課程修了生36名、及び博士後期課程修了生21名の計107名で、それぞれ授与された学位記を胸に、思い出の詰まった母校から旅立ちの日を迎えました。

竹内学長は式辞の中で、新型コロナウイルス感染症のために勉学や実習等に十分励める環境には無かった学生達に対し、労いの言葉を伝えるとともに、「この経験により不測の事態に対応できる力が身についたのではないか、"禍も三年経てば用に立つ（世の中に役に立たないものはないというたとえ）"ということわざがあるが、今こそこのことわざを生かせるように努力し、

未来に向かって進まなければならない。」と述べました。

また、元アメリカ大統領トーマス・ジェファーソンの「I'm a great believer in luck, and I find the harder I work the more I have of it : 私は、運の存在を強く信じている。そして、運は努力すればするほど、ついてくることを知っている」という言葉を引用しながら、「実験が上手くいかず悩んで試行錯誤していた時に、偶然新しい発見が得られたこともある」という自身のエピソードを紹介し、卒業生・修了生に対し、努力し、幸運を手に入れて欲しいという激励の言葉を送りました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を卒業生・修了生と教職員のみ限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、卒業生・修了生の門出を祝う温かい雰囲気の中での開催となりました。



ソーシャルディスタンス



代表者への学位記授与



学長式辞

令和2年度10月期大学院入学式を行いました

令和2年度10月期入学式を10月5日（月）、楽水会館大会議室（品川キャンパス）にて挙行了しました。

本学では、大学院（海洋科学技術研究科）に10月期入学の制度があることから、この時期に開催しており、新入生の多くが留学生のため、例年通り、司会や学長式辞は全て英語にて執り行われました。

新入生は、博士前期課程29名、博士後期課程22名の計51名が東京海洋大学生として、新たな一歩を踏み出しました。

竹内学長は式辞の中で、本学の新たな教育プログラムである「海洋産業A | プロフェッショナル育成卓越大学院プログラム」と、令和2年10月に新たに設置した「水圏生殖工学研究所」について紹介するとともに、

新入生に対し、「本学において『海洋の未来を拓くために』、海洋のトップランナーとして新しい道を切り開き、産業を創設する意気込みを持って、思う存分学び、そして研究して欲しい、そして、多くのかけがえのない友人を得、社会で必要とされる知識と豊かな先見性と想像力を持って未来に挑戦し、活躍できる資質を備えられること祈念している」との激励の言葉を送りました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出席者を新入生と教職員のみ限定し、検温や座席間隔の確保等、例年とは異なる形式となりましたが、新入生の門出を祝う和やかな雰囲気の中での開催となりました。



間隔を確保した新入生の座席



学長式辞

新型コロナウイルス感染症に関する対応について

東京海洋大学では、令和2年3月30日に「新型コロナウイルス対策本部（本部長：学長）」を立ち上げ、オンラインによる遠隔授業の活用や、キャンパスへの入構制限、海外渡航等の制限、感染が疑われる場合や感染した場合の相談体制の整備、経済的支援を必要とする学生に対する各種貸与・給付事業の実施等、感染拡大防止のための対策を検討・実施してまいりました。これらの対応については、決定次第速やかに本学の新型コロナウイルス感染症特設ホームページ（※）で周知を行っています。また、特に重要なものや緊急なものについては、学生の皆様が普段利用している学務システムからお知らせしています。

新型コロナウイルス感染症の拡大を抑え、この困難

な状況を乗り越えていくためには、本学の構成員が一丸となって取り組むことが不可欠です。学生の皆さんが安心して教育研究活動を行うことができるよう、本学として引き続き対応してまいりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

※新型コロナウイルス感染症特設ホームページ
<https://www.kaiyodai.ac.jp/overview/corporateeffort/newcorona/coronavirus.html>
（トップページのPick up!に掲載されている赤いバナー「新型コロナウイルス感染症への対応について」をクリックしても見ることができます。）

令和2年度サークルリーダーシップ研修会を開催しました

令和2年10月7日（水）に品川キャンパス白鷹館2階多目的スペースおよび越中島キャンパス1号館1階第一会議室で、サークルリーダーシップ研修会を開催しました。

当日は、オンラインでの参加の学生や顧問教員など71団体134名が参加しました。

令和2年度の研修会では、10月から段階的に課外活動を再開するにあたり、「課外活動における新型コロナウイルス感染症の予防について」と題して研修会を開催しました。

課外活動団体の学生代表者と顧問教員が、コロナ禍での課外活動の再開の在り方について理解を深めることを目的としたものです。

今年は、庄司り副学長（学生支援・広報担当）から「課外活動の段階的再開について」と題して、コロナ禍で段階的に課外活動を再開するためにはどのように対応しなければいけないのか、また、品川キャンパス保健管理センター教授井上泉先生から「課外活動における新型コロナウイルス感染について」と題して、医師の立場から新型コロナウイルス感染症についての概要および現在どのようなことを注意したらよいのか、ご展示いただきました。学生のみなさんも真剣に受講していました。

その後、学生サービス課より「今後の段階的課外活動について」の説明がありました。

課外活動団体から、多くの質問が寄せられました。

課外活動の段階的再開については、「課外活動におけ

る新型コロナウイルス感染防止対策指針」を定め、課外活動の再開を慎重かつ段階的に勤めていくこととしています。

また、少人数に制限しグループ毎にわけるとした活動、短時間での活動に制限した活動とし、計画的、段階的に活動をステップアップしていくことを前提としています。

課外活動を再開できる団体については、「サークルリーダーシップ研修会」に参加した団体のみとし、再開計画、感染防止対策等を記載した必要書類も提出させることとしています。

また、活動日ごとに感染防止対策チェックリスト、課外活動団体記録簿を作成、保管することとしています。

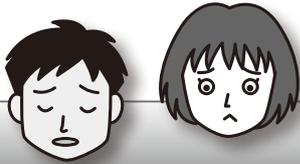
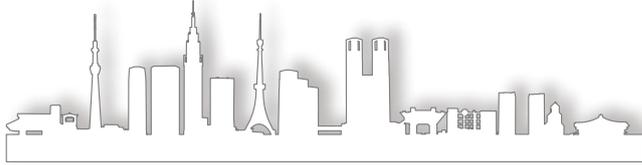
今年度のサークルリーダーシップ研修会は、新型コロナウイルス感染症に関連した事項を中心に、多くのことを理解し深める内容として、とても充実した研修会となりました。





学生相談室からの

お知らせ



学生相談室について

学生相談（カウンセリング）

学生生活、進路、対人関係で悩みがある場合は、専門カウンセラーが相談に応じます。

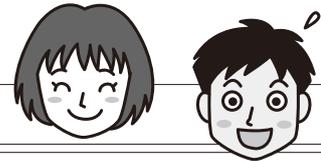
話をしてみることで、あるいは自分の思いを表現してみることで、思いのほか気持ちが楽になったり、次

への展開へのきっかけが見つかったりもするものです。相談内容についての秘密は厳守されています。

当面の間、新型コロナウイルス感染症の対応として原則、電話でのカウンセリングとなります。なお曜日変更となる場合がありますので、HPをご確認ください。

34

品川キャンパス

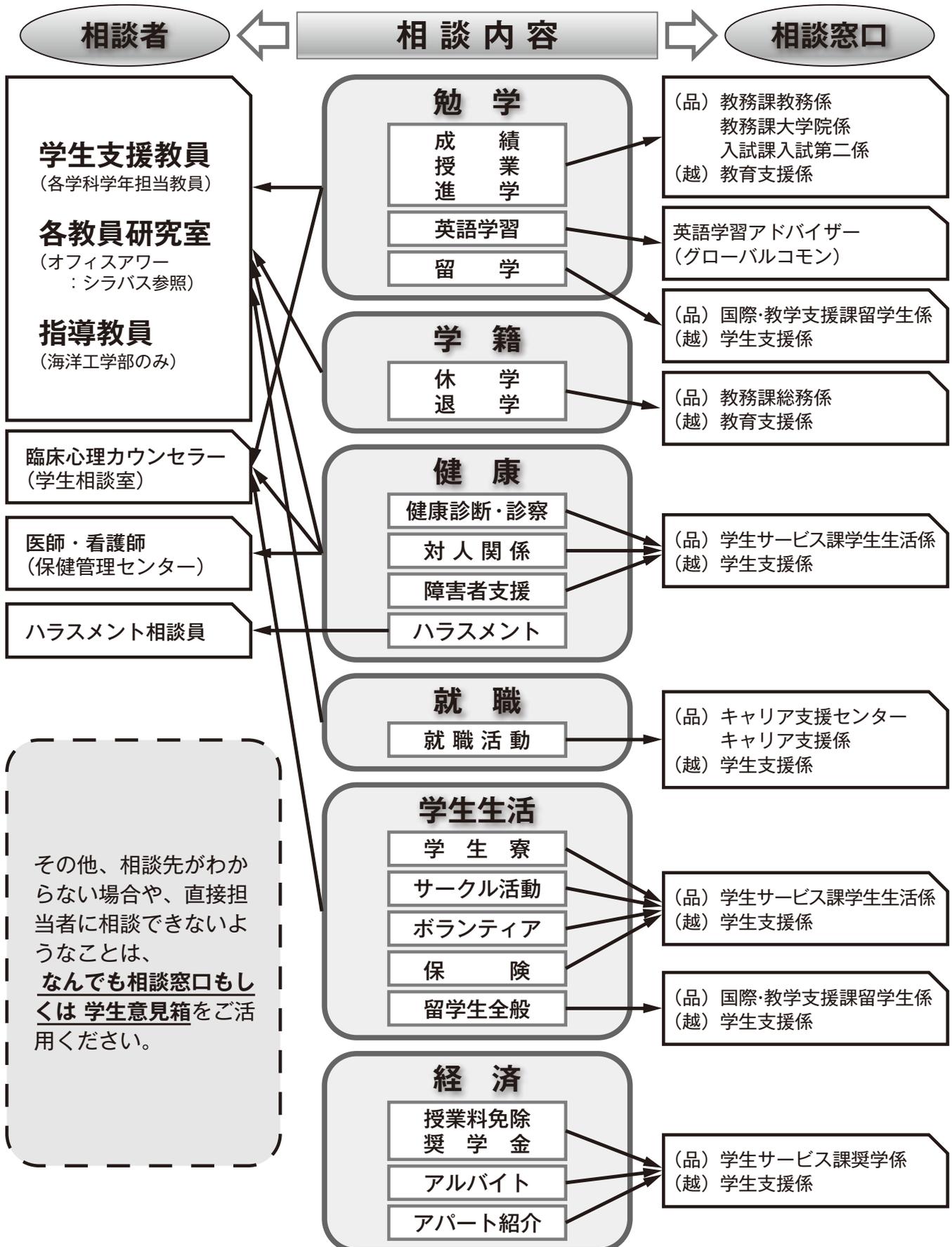


場 所	大学会館1階学生相談室
日 時	※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	井上先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 高井先生（女性：臨床心理カウンセラー・木曜日担当）
予約方法	メールでご予約ください。 メール s-counseling@o.kaiyodai.ac.jp

越中島キャンパス

場 所	越中島会館1階 学生相談室
日 時	水・金曜日 12:00～16:00 ※詳細については、保健管理センターホームページをご覧ください。 大学ホームページ — 「在学生の方へ」 — 「保健管理センター」 — 「学生相談」
相 談 員	善積先生（女性：臨床心理カウンセラー・水曜日担当） 河崎先生（女性：臨床心理カウンセラー・金曜日担当）
予約方法	直接相談室においでくださるか、保健管理センターでご予約ください。 1. 窓口にて 2. 電 話 03-5245-7357（保健管理センター事務室） 3. メール e-hoken@o.kaiyodai.ac.jp

本学の学生相談体制について



お知らせ

就職支援体制について

キャリア支援センターでは学生への支援として開催している「就職ガイダンス」、「企業説明会」、「公務員試験対策講座」及び「各種就職関連テスト」の実施、留学生に特化した「進路ガイダンス」、職業観の涵養を目的とした企業による業界セミナー及びエントリーシート添削・面接対策などの個別就職相談を更に充実させるとともに、学生の就職に対する意識の向上を促し、教学と学生支援の協働を緊密に行い進路支援体制の強化を図っています。学部生対象のキャリア教育としては、インターンシップへの参加を意識させることにより、様々な形での社会からのニーズに触れ、学生が自分のキャリアデザインに資

する機会を設けています。学部で開講する「キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の科目は、キャリア開発に関する講義や産業界で活躍する人材をゲストスピーカーとして招くとともに、学部の特色に応じた社会的な情勢を学生に伝え、キャリア形成に向けた動機付けを高める内容となっています。また、特に大学院生に特化したキャリア教育としてはキャリア相談等の支援体制を充実させ、特任教授によるキャリア開発に関する講義や企業や団体の第一線で活躍する方を講師に迎えて実施する「高度専門キャリア形成論Ⅰ・Ⅱ」の開講などにより、キャリア開発支援に取り組んでいます

国立科学博物館および国立美術館の利用について

本学は、「国立科学博物館 大学パートナーシップ」および「国立美術館キャンパスメンバーズ」に加入しております。

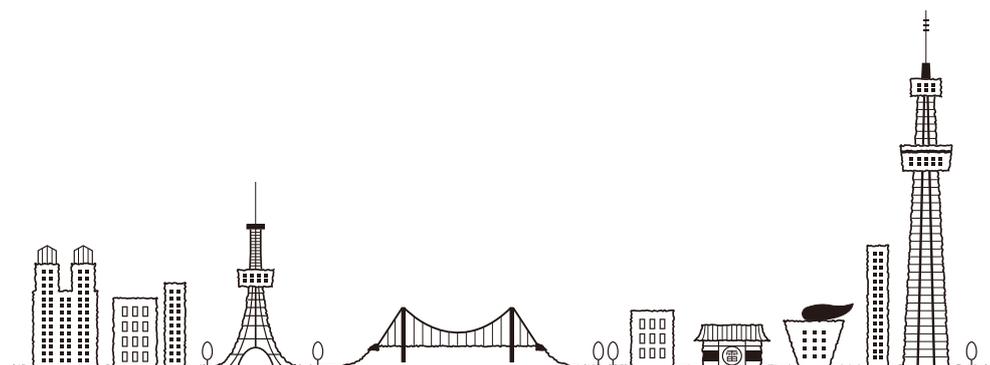
◆国立科学博物館 大学パートナーシップ利用可能施設

施設名	住所
国立科学博物館(上野公園)	東京都台東区上野公園7-20
附属自然教育園	東京都港区白金台5-21-5
筑波実験植物園	茨城県つくば市天久保4-1-1

本学の学生証を提示することで、下記施設の常設展が無料で利用できるほか、特別展・企画展を割引料金で鑑賞できるなどの特典があるので、ぜひご利用ください。

◆国立美術館 キャンパスメンバーズ利用可能施設

施設名	住所
東京国立近代美術館	東京都千代田区北の丸公園3-1
国立西洋美術館	東京都台東区上野公園7-7
国立新美術館	東京都港区六本木7-22-2
国立映画アーカイブ	東京都中央区京橋3-7-6



緊急時連絡システムについて

(さくら連絡網)

1. 緊急時連絡システムとは

本学のすべての学生・教職員と緊急時に連絡をとるためのメール・LINE・アプリによる配信システムです。

- ①台風・地震等の自然災害やインフルエンザ流行等による**緊急の休講等**を連絡します。
- ②**災害時の安否確認**や健康状態の収集手段としても使用します。
- ③その他、掲示板で告知するお知らせの中で緊急性があり重要と判断するお知らせ等の連絡をします。

2. 登録方法

携帯電話・スマートフォン等の携帯端末や自宅PC等の**複数のメールアドレス（4件まで）、LINE、アプリ**も登録できます。**必ず登録して下さい。**

3. 登録手順

(1) さくら連絡網登録用QRコードまたはURLにアクセスします。

QRコードはこちら →



URLはこちら → <http://390390.jp>

URLを直接入力した場合は、
認証コードの入力を求められます。
認証コード：204 441 4

(2) 連絡を受け取りたい方法を**【LINE】**、**【アプリ】**、**【メール】**から選びます。(※ 3種類とも登録できます。)

(3) **【LINE】**を選んだ場合

- ①LINEの友だち追加ボタンから登録（追加）します。（トークから登録開始）
- ②認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【アプリ】を選んだ場合

- ①さくら連絡網のアプリをインストールします。
- ②アプリを起動して、認証コード：204 441 4 を入力します。
- ③IDとパスコードを入力します。

【メール】を選んだ場合

- ①登録用メール送信画面に切り替わるので、そのまま送信します。(※メール本文は変更しないでください。)
- ②さくら連絡網からメールで登録用のURLが届きます。
- ③URLにアクセスして、登録画面からIDとパスコードを入力します。

(4) メニュー画面（以下、マイページといいます）が表示されたら登録完了です。

4. メール受信時の注意

- ①緊急時連絡システムでは、メール、LINE、を受信者が開封したかどうかの確認できるシステムです。
また、アンケート形式で安否確認を行う場合もあります。
受信した場合は、必ず開封し、内容を確認した後、指示に従って回答して下さい。
- ②登録用メールが届かない場合は、ドメイン指定受信に「school.i.net」を追加登録して下さい。
- ③マイページ (<https://390390.jp/parent/menu>) をブックマーク（スマートフォンの場合はホーム画面に追加）しておくと、後日、メールアドレスの変更等を行う際に便利です。また、簡単ログイン設定をしておくと、次回からワンクリックでマイページにアクセスできます。
- ④配信先の変更を希望する場合やアドレス自体を変更した場合は、マイページのメニューの「連絡先を追加」から新し

い連絡先を追加するとともに、「登録情報確認」から古い連絡先を削除して下さい。

- ⑤ログインID、パスコードは、各自で管理して下さい。（入学時に、学部生には大学メールアドレスに配信。大学院生、非正規生には紙で配付しています。）
- ⑥パスコードを紛失した場合は、以下の問合せ先へご連絡下さい。
- ⑦緊急時連絡システムは、大学からの送信専用アドレスです。上記のアンケート形式での回答以外は、大学側では内容の確認ができませんのでご注意ください。

5. 個人情報の取り扱いに関して

緊急時連絡システムにご登録いただいたメールアドレス等、個人情報に関しては本学個人情報保護規則に則り厳正な取扱いをいたします。また、上記の目的に限り使用し、他の目的で使用することはありません。

EMERGENCY CONTACT SYSTEM

“さくら連絡網 (SAKURA RENRAKUMOU REGISTRATION)”

What is the Emergency Contact System?

The purpose of this system is to contact students, professors and university staff members by email in the following cases:

1. to inform them when classes are suddenly canceled due to a natural disaster (typhoon, earthquake), a flu epidemic or other reasons
2. to gather information about the safety and health of university members after a disaster
3. to inform urgent and important information displayed on the university's notice boards

How to register

Please register multiple mail addresses (up to Four) or LINE or app of mobile terminals such as mobile phones, smart phones, and home PC in order to confirm the correspondence from university in emergency surely and promptly. Please be sure to register.

Registration process

1. Access the QR code or URL for Sakura Renrakumou registration.

QR code



URL

<http://390390.jp>

2. Choose a method by which you would like to receive from the university, “LINE” or “app” or “Email.”

*You can also register both.

3. When you choose **“LINE”**,

- ① register (add) from LINE's Add Friends button. (i.e., start from “Talk” page).
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“app”**,

- ① Install Sakura Renrakumou app.
- ② input Authentication code: 204 441 4.
- ③ input ID and Passcode.

When you choose **“Email”**,

- ① the page moves to the registration mail sending screen, please send the mail.

*Please do not change the mail body.)

- ② receive an email for registration from Sakura Renrakumou.
- ③ access the URL and enter the ID and passcode on the registration screen.

4. Registration is completed when the menu screen is displayed.

Notes

- The system is configured to detect whether recipients have accessed their messages. It is also used to gather information about the safety of the registered community through questionnaires. When you receive it, please ensure that you open the message and reply according to the instructions.
- If you fail to receive the registration form after sending a registration email, please check your mobile phone's spam filter settings. Add the domain name school-i.net to your list of authorized contacts.
- Add the system login page (<https://390390.jp/parent/login>) to your bookmarks to easily access your email and passcode settings.
- Manage your ID and passcode carefully, and make sure that you change your passcode after logging in for the first time.
- To change your delivery settings, register a new email address.
- If you forget your passcode, contact the responsible section using the contact details below.
- The system is a send-only address. Please keep in mind that the university cannot receive emails sent to this address.

Privacy policy

Email addresses and other personal information registered on the system are strictly protected according to the university's privacy policy. The system is used exclusively for the purposes stated above.

Contact

General Affairs Department, General Affairs Division
Email: so-soumu@o.kaiyodai.ac.jp Tel: 03-5463-0354

重要!

ネットワーク障害防止のための注意事項

キャンパス内で、ネットワーク停止が頻発しています。
研究室内の配線の点検をお願いします。

ループ状にケーブルを接続しない

ケーブルの両端をネットワーク機器に接続すると、出口のない通信パケットがネットワーク内で増大し、フロア全体や建屋全体が通信不能になるなどの重大な障害が引き起こされます。利用しないケーブルは機器から取り外してください。



古いハブ、壊れた LAN ケーブルを使用しない

古くなったプラスチック製のハブ(HUB、Switch)は、熱暴走等でフロア全体の通信障害の原因となることがあります。壊れた配線やコネクタの損傷も通信トラブルの原因になる場合があります。導入後の年数や破損状況などを確認し、適宜、買い替えましょう。

→ **金属製ケースのハブがオススメ**です。放熱に優れ、安定して長く使えます。
詳しい型番などは下記窓口にお問い合わせください。

研究室内のルータの設定・接続を正しく行う

研究室で個別に設置したブロードバンドルータ、無線 LAN ルータの DHCP 機能の誤設定により、フロアや建屋全体での通信障害につながる場合があります。ネットワークケーブルが正しく接続されているかを点検してください。

→ **「WAN」「LAN」を間違えると障害が発生します!**

古い OA タップの使用、定格電流を超えた使用や、タコ足配線は**火災の原因になります**ので、注意してください。



注意

PC は最新の状態にアップデートしてください

OS の脆弱性を狙ったウイルスによる情報漏えい被害が世界的に報告されています。利用している OS やウイルス対策ソフトを常に最新の状態を保つようにしてください。私有のノート PC でも、大学配布のウイルス対策ソフトをインストールすることができますので、是非活用してください。

Windows XP、Vista、8、Mac OSX、macOS の古いバージョンは、メーカーサポートが終了しています。これらの OS をお使いの場合は速やかに最新の OS に更新してください。
現在利用可能な OS は、Windows 10、Windows 8.1、最新バージョンの macOS です。

PC 等を廃棄する際はデータの消去をしてください

廃棄するパソコン等からの情報流出を防ぐため、ハードディスク、SSD 等の記録媒体の破壊装置、消去装置を利用してください。下記窓口にお持ちください。

情報システムに関する全学問合せ窓口

メール ict-support@o.kaiyodai.ac.jp 内線 0446

附属図書館(品川) 1階事務室内 (担当: 学術情報課情報企画係)

大学配布ソフトウェアの入手方法 <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

Important!



Precautions for Preventing Network Failure

Network outages occur frequently on campus.
Check the wiring inside the research office.

Do not connect the cable in a loop (as in the picture.)

Connecting both ends of a cable to network equipment can cause serious obstacles. For example, communication packets without an exit increase within the network, making the entire floor or building unreachable. Remove unused cables from the equipment.



Do not use old hubs or broken LAN cables

An old plastic hub (HUB, Switch) may cause communication failure of the entire floor due to thermal runaway. Damaged wires and connector damage may also cause communication trouble. Check the years of use and state of damage and replace as necessary.

→ A hub with a metal case is recommended. It is stable, long-lasting, and provides excellent heat dissipation. For a detailed model number, contact the Inquiry Center given at the bottom of this page.

Set up and connect the router in the office correctly.

Misconfiguration of the DHCP function on the broadband router and wireless LAN router individually installed in the offices may lead to communication failure on the floor or the entire building. Check that the network cable is properly connected.

→If "WAN" and "LAN" are confused, network failure will result! Use of old OA taps, use exceeding the rated current, and use of power strips may cause fire. Beware.



Caution

Optimize your PC with the latest updates



Information leakage due to viruses targeting OS vulnerabilities is reported worldwide. Make sure that the operating system and antivirus software you are using are kept up to date. Even on a private notebook PC, you can install the university-distributed antivirus software. Take advantage of it by all means. Manufacturer support has ended for Windows XP, Vista, 8, Mac OS X, and old versions of macOS. Update to the latest OS promptly if using these OS. The currently available OS are Windows 10, Windows 8.1, and the latest version of mac OS.

Delete data when discarding a PC, etc.

To prevent information leakage from discarded personal computers, etc., use data destruction and erasure devices for recording media such as hard disks and SSDs. Please bring them to the following counter:

Information System Inquiry Center

Email ict-support@o.kaiyodai.ac.jp Extension 0446

TUMSAT Library (Shinagawa) Office, first floor

To obtain University distribution software, contact: <http://support.ipc.kaiyodai.ac.jp/>

学生関係窓口からのお知らせ

両キャンパスの学生関係の窓口対応時間は下記のとおりです。

窓 口	窓口対応時間
《品川キャンパス》 学務部事務室 (講義棟1階) キャリア支援センター (白鷹館1階) 《越中島キャンパス》 越中島地区事務室 (1号館1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 18:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00
《品川キャンパス》 入 試 課 (本部管理棟1階)	○授 業 期 間 8:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00 ○春・夏・冬季休業期間 9:00 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00

※新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、各キャンパスの窓口対応時間が変更となることがあります。

悪質な就活商法に関する注意喚起

各大学で、学生に対して就職活動を支援するためのセミナー等を企画し、高額な参加費を徴収する団体による被害が発生しています。

なお、参加費が無料である場合も注意が必要です。そのセミナー等がカルト団体の勧誘窓口となっている場合があります。

本学においても、近年、そのような団体に入会して脱退する時に苦労した事例や、学内において強引な勧誘行為があったとの相談が寄せられた事例があります。

就活イベントの会場周辺では就活生の不安につけ込み、親しげに声をかけ就活商法の勧誘を行う者がおり、安易に氏名や携帯番号を教えている就活生も多いようです。



セミナー等の就活商法については、安易に個人情報を伝えることのないようご注意ください。国民生活センターによると、就活商法の被害相談は、毎年100件を超えているそうです。

「被害に遭った」「意に反して強引に勧誘された」等の場合、遠慮なく〔相談窓口〕へご相談ください。

(品 川) 学生サービス課学生生活係
 (越中島) 越中島地区事務室学生支援係



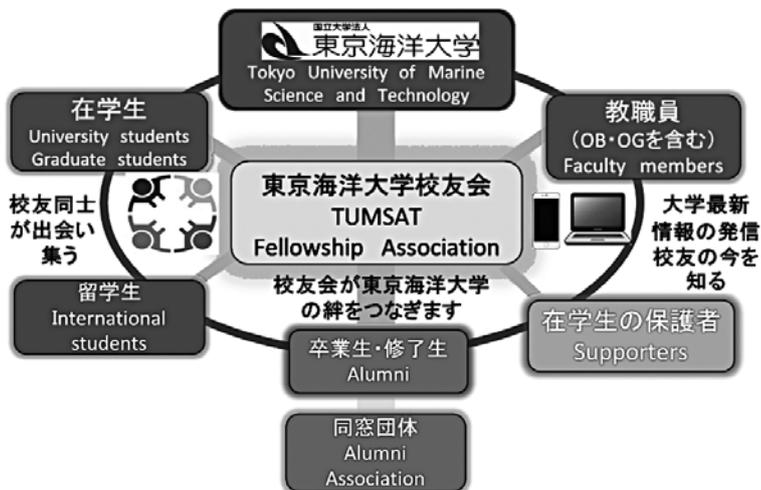
東京海洋大学校友会のご案内

Q1. 「東京海洋大学校友会」とは何ですか？

本学は、2017年4月の新学部設立を機に国内における唯一の海洋系総合大学として体制を強化にしました。今後、社会全体に強くその存在をアピールしていくため、2018年4月、全学的に「校友」同士の交流を活発化させ、本学の発展に寄与することを目的として、「東京海洋大学校友会」を発足しました。

Q2. 「校友」とは誰ですか？

東京海洋大学および東京水産大学、東京商船大学等前身校の卒業生、在學生、在學生・卒業生の保護者、教職員の皆さまです。ホームカミングデーや練習船見学会など、「校友」限定イベントも企画し、「校友会ホームページ」や「校友会メルマガ」でお知らせいたしますので、ぜひご参加ください。



Q3. 「校友会ホームページ」とは何ですか？私もアカウントを貰えますか？

SNS機能、校友会メルマガ、公認課外活動団体ポータルサイトなど様々な機能を備えた「校友」限定ホームページです。

「校友」の皆さまには個別アカウントを配布しております。（登録及び会費は無料です。）



海洋大の「今」が分かるコンテンツを少しずつ充実させています。開発中の機能もありますが、ぜひ、実際に使ってみてください。



(校友会ホームページ) QRコード

【アカウント取得方法】

- 在學生の方：大学メールアドレス（～@edu.kaiyodai.ac.jp）宛にID・パスワードを送付済みです。不明な場合は、再送も可能ですので、お気軽に校友会事務局にお問合せください。
- 卒業生・保護者の方：校友会ホームページの「新規登録」ボタンから、ぜひ申請をお願いいたします。（校友会事務局で内容を確認後、ID・パスワードを送付します。）

★★★ご卒業を控えた方へ★★★

【重要】ご卒業後も引き続き利用いただけるようにするため、卒業前に「連絡用メールアドレス」の変更をお願いいたします。※初期設定の大学メールアドレスは、卒業後に使用できなくなります。（ログイン後の画面「プロフィール設定」>「プロフィールの編集」>「連絡用メールアドレス」）

また、本学卒業生を支援する同窓組織として「楽水会」「海洋会」があります。本学卒業生との強固なネットワークを築いておりますので、ぜひご加入ください。

楽水会：<http://rakusui.or.jp/>

海洋会：<http://www.kaiyo-kai.com/>

校友会に関する問合せ先：

東京海洋大学校友会事務局

電話番号：03-5463-4014

メールアドレス：koyukai@o.kaiyodai.ac.jp

掲 示 版

薬物の乱用について

薬物の乱用は、本人の精神と身体に危害を及ぼします。また、友人や家族関係の崩壊にもつながるなど、本人だけでなく、社会全体に計り知れない影響をもたらします。このため、薬物の所持や使用は法律で禁止されており、違反者は厳罰に処せられます。

薬物に対して安易な気持ちや一時の興味で接することのないよう十分注意してください。

盗難に注意

下記の事項を守り、自己管理を徹底してください。

- ・貴重品は、できる限り大学には持参しないでください。
- ・やむを得ず所持する場合は、各自でロッカーに鍵をかけて管理してください。
- ・鍵は安易に解錠出来ないもの（ダイヤル式など）を選んでください。

悪質商法等に注意

消費者契約等に関するトラブルが増加しています。うまい話には要注意です。少しでも疑問を感じたら契約しないでください。また、身に覚えのない請求などは支払わないでください。

訪問販売や電話勧誘販売など、特定の取引の場合に、一定期間内ならば理由を問わず解約できるクーリング・オフ制度があります。もしも被害に遭ってしまったときは消費生活センターに相談してください。

カルト団体等の偽装勧誘に注意

キャンパス内において、自らが宗教団体であることを名乗ることなく、サークル活動や自主ゼミと称し、特定の反社会的なカルト団体に引き込まうとする「偽装勧誘」の事例があります。

声を掛けられておかしいと感じた場合はキッパリと断り、安易に電話番号、メールアドレス等を交換しないでください。また、不審な団体と感じたとき、あるいは勧誘活動を受けた場合は、下記まで知らせてください。

- 品川キャンパス：学生サービス課学生生活係
- 越中島キャンパス：越中島地区事務室学生支援係

飲酒についての注意事項

(1) 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。

アルコールには麻酔作用があるので、未成年者が飲み方や適量もわからず無理に飲むと、急性アルコール中毒を起こしやすいといわれています。もし、誰かに勧められても、きちんと断ることが大切です。

(2) 飲酒の強要は絶対にしないこと。

未成年者やお酒に弱い方にお酒を強要することは絶対にしないでください。

(3) 飲酒運転は厳禁です。

「道路交通法」では飲酒運転のほか、飲酒者への車両の提供、運転者への酒類の提供、飲酒運転の車への同乗についても禁止されており、厳しい罰則が課せられます。

